

益益 公社団法人 米沢有為会々誌

復刊第71号 令和3年12月



農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋 日 山

日本橋 日 山 本 店	中央区日本橋人形町2-5-1 TEL 03 (3666) 5257
すき焼き割烹 日 山 (予約が必要です)	中央区日本橋人形町2-5-1 TEL 03 (3666) 2901
日 山 亀 戸 店	江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1 TEL 03 (3638) 1129
日 山 大丸東京店	千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店内B1F TEL 03 (3211) 2901

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

益人益社 公団法 米沢有為会々誌

復刊第71号



国宝上杉本洛中洛外図屏風 右隻2扇上部やさかのとうの下、五条大橋の場面

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



↑
表紙は、右隻2扇上部やさかのとうの下、五条大橋の場面です。

〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口は10万人と言われているので、約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7（1995）年国宝となり、上杉家文書が平成13（2001）年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、京都5条通りの鴨川にかけられた五条大橋である。

この橋は、平安時代末に牛若丸（源義経）と弁慶が出会ったという伝説がある名である。

熱い真夏の様子であろうか、日笠を被った人や女商人が被っていたと言われる市女笠（いちめかさ）で暑さを凌いでいる女性の姿が見られる。また、鴨川で水浴びをしている若者も描かれている。

目次

扉	1
ご挨拶	4
ご挨拶	6
創立百三十年活動ビジョン(活動五か年計画)	8
創立百三十年記念事業 雑誌類デジタル化事業	12
本部活動報告	16
第八(通算一三四)回定時総会の報告	16
本部各部門の主要活動報告	21
米沢有為会リモート会議のお薦め	33
奨学生だより	34
支部だより	36
東京支部	36
米沢支部	38
仙台支部	41
北海道支部	43
興譲館寮だより	44
東京興譲館	44
仙台興譲館	47
我妻榮記念館だより	50
置賜市町だより	52

米沢市	52
長井市	55
南陽市	58
高畠町	62
川西町	65
小国町	68
白鷹町	71
飯豊町	73
高校生小論文コンテスト	77
会員の広場	92
郷土の本紹介	98
法人賛助会員名簿	101
公益社団法人米沢有為会役員名簿	103
公益社団法人米沢有為会組織一覧図	107
本部・各支部事務所等所在地	108
米沢有為会からのお願い・置賜地区自治体所在地	109
後記	110
広告掲載企業一覧	111
広告	112



ご挨拶

名誉会長 上 杉 邦 憲

『米沢有為会々誌』第七十一号の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

令和三年はコロナ第三波とともに始まりました。「ワクチンが出来るころなと、ワクと待つころなり、新たな年」との期待にも拘らず、八月二十日には第五波のピークを迎え、一日に二万五千八百六十七人という信じられないくらいに感染確認者数を記録しました。

ワクチン接種が進んだ効果もあつてか、急激に感染者数は減少し、九月三十日には緊急事態宣言等全ての制限が解除され、ようやく明るい兆しが見えるようですが、まだまだ予断は許されない状況でしょう。

河原での芋煮会もままならず、気持ちも沈みがちな時期ではありますが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。ご自身やご家族、お知り合いで感染されたり、影響を受けられた方がおられましたら、心よりお見舞い申し上げます。

このような状況下にあつて、理事会や定時総会もZoomによるオンライン会議に

せざるを得ないなど、苦勞の多い年となっておりますが、平山新会長の下、本会の地道な活動の軌跡を記録するため『米沢有為会々誌』が継続して発行されていることや、百三十周年記念事業の一環として昨年十月から進められていた明治以来の有為会雑誌類のデジタル化事業が、本年七月三十一日ようやく完成の運びとなったことなどをお慶び申し上げます。

また、昨年一月に米沢市で開催された百三十周年記念事業「地域未来を拓く若人フォーラムin置賜」のパネルディスカッションでコーディネーターを務められた山形大学大学院有機材料システム研究科卓越研究教授の城戸淳二氏が、二〇二一年度藤原賞受賞の栄に浴されたことは、米沢にとっても名誉で嬉しく明るいニュースでした。藤原賞は、日本国内の科学技術の発展に卓越した貢献をした科学者に贈られる賞で、過去には伏見康治氏や小柴昌俊氏等錚々たる方々が受賞されています。なお、有為会会員では西村純氏が二〇〇一年に受賞しています。

賛否はありましたが、半世紀ぶりの東京オリンピック・パラリンピックも無事終了して、これからは明るい出来事が増えていくことを期待したいと思います。「止まない雨はない、明けない夜はない」です。

末筆ながら、理事、役員の皆様、我妻記念館や興譲館寮の運営に携わっておられる方々、そして百三十周年記念事業に多額の寄付をしてくださっている方達だけでなく、有為会を支えてくださっている会員の皆様に心から感謝するとともに、会員の皆様、今後とも新型コロナウイルスの感染防止等に十分ご留意されながらご自愛の上、ますますご壮健にてお過しくださいますよう衷心よりお祈り申し上げ、御挨拶と致します。



「今、求められる変革」

米沢有為会会長 平 山 英 三

今年六月の定時総会とその後の理事会で会長に選任していただきました。よろしくお願いたします。有為会百三十周年の伝統の重みをひしひしと感じています。この度の役員改選では、大滝前会長をはじめほぼ半数の理事の方々が退任され、後任に新しい方々にご就任いただきました。これまで永年にわたり本会の屋台骨を支えてきてくださった方々お一人おひとりに心から御礼を申し上げるとともに、新しく加わってくださった方々のご尽力とご活躍をよろしく願います。

コロナ禍で、社会が大きく変わろうとしている今、米沢有為会もまた大きな変革を求められています。幸い、東京、仙台の両興譲館ともに一人の寮生も感染しなかったことは、寮生たち、館長、寮母さんなど関係者のご努力があったものと心から感謝しています。引き続き感染対策をよろしく願います。

本会の活動も、三密を防ぐため、集まることをやめました。一時は理事会を開くこともできませんでした。電話や電子メールによる議決は時間と手間がかかり大変でしたが、現在では、ズームを用いたリモート会議に役員全員が対応しており、定期的な理事会の開催が可能になっています。このことは理事会参加者の距離的、時間的負担を軽減し、交通費を中心とした経費節減にも大きく貢献しています。コロナ終息後は議題によって集まっの会議とリモート会議を使い分けていくことになるでしょう。このようなコロ

ナ禍の中ではありますが、本会の創立百三十周年という大きな節目を無事に迎えることができたことは、皆様のご支援とご協力の賜物と感謝しています。

創立百三十周年記念事業に対する協賛金は昨年の会誌でご報告したとおり、目標額を大きく上回りました。感謝いたします。本誌掲載の「創立百三十周年活動ビジョン」の進捗状況に示したとおり、既にそれぞれの事業が進められています。昨年の寮室サッシュ窓工事や庇改修工事および外壁タイル補修工事に続き今年行われた東京興譲館寮の個室のフローリングへの改修工事も無事完了しました。

しかしながら、その中で東京興譲館寮の給・排水の配管等が五十五年間手つかずであったことから劣化が進み、根治的な改修を必要としていることがわかり、今後の修繕費用の捻出が大きな課題となっています。

創立百三十周年事業の一つである『米澤有為会雑誌』類のデジタル化」も完成し、データを市立米沢図書館に寄贈することができました。これらの情報は、本会を創り、育て、支えてきてくださった先達の偉業を見える形で後進に伝えていく重要な資産です。目次や索引などを整備し、自在に検索ができるようなシステムに成長させていきたいと願っています。

米澤有為会の公益社団法人としての活動は、平成二十五年度に公益認定を受けて一段と拡大し、財務、会計を含む事務局の業務がボランティアの奉仕だけでは処理しきれないところになっていきます。これを担当する有給の事務職員が必要であり、今そのための模索が続いています。新しい体制になつての財務会計処理の取り組みは困難もありますが、会の財政構造を再構築し強化する機会としていきたいと思っています。このための財源の確保や、会の体質改善に取り組み、徹底した大改革を行う必要があります。法的な問題点の解決などもあり多岐にわたる課題に取り組んでいかなければなりません。

会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げる次第です。

グローバル社会で躍動する置賜の未来への貢献

公益社団法人 米沢有為会

創立百三十周年活動ビジョン

進捗 状況

二〇二二年十一月現在

- 印＝活動五か年計画における重点項目
- ※印＝創立百三十周年記念事業
- ★印＝進捗済み
- ☆進捗継続中

活動の目標

- ＊未来を担う置賜若人の夢を育英活動で支援します
- ＊置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献します

活動五か年計画 二〇一八～二〇二二

○育英事業

国の内外に雄飛する有為な人材の育成と同時に、特に郷土を担う有為な人材の育成に努めます

男女共同参画社会の実現に向け、女子学生の修学環境を整備します

●若人の置賜定着の推進

●女子の社会進出への寄与

※世界に羽ばたく人材の育成に加え、地域を担う生き方の選択や、地元に住住する者を支援

※男女共同活躍時代の実現を促進

◇学生寮◇

学生寮（東京・仙台の興譲館寮）の施設整備を進め、勉学環境の向上を図ります

●学生寮の勉学環境の向上

- ※(1)学生寮の充実 ①東京と仙台の学生寮を改修し、勉学環境を一層改善
- ②東京興譲館寮への女子学生の受入れ

★仙台寮の居室等改修工事実施（二〇一九年夏）

★東京寮に防犯カメラ設置（二〇一九年秋）

★東京寮外装塗装・防水工事及び居室サッシ窓工事実施（二〇二〇年秋）

★館長をサポートする東京寮運営チームの配置（二〇二〇年夏から）

★東京寮の居室リニューアル改修（二〇二二年夏施工）

☆学生寮基本問題の検討（東京寮女子学生受入れ課題を含む）

★コロナ禍で入寮希望者オンライン面接（二〇二二年）

◇奨学金◇

新たに給付型（返済減免も含む）を加え、従来の貸与型と共に充実を図ります

●奨学金制度の充実、特に減免型奨学金の創設

※(2)奨学金制度の充実 ①実質的給付型奨学金制度の創設―卒業後に置賜三市五町内に就職し、地元に住住する者に貸与奨学金の返済を免除 ②女子学生修学支援枠を設け、住宅費負担を奨学金で支援

★二〇二〇年四月採用奨学生から新規の返還一部減免型及び女子学生住宅費支援の新枠を含む新制度による奨学生を募集（以後、毎年度）

★奨学生情報の整備及び返還手続きの容易化（自動振込方式の導入等）

○地域振興事業

自治体や地域の諸活動と連携・協働して、活力ある地域づくりに貢献します

●自治体・地域関係団体との連携強化

◇表彰◇

教育・文化・産業等の分野で顕著な業績ある個人・団体・企業等の表彰、小・中・高校生のスポーツ・文化活動等で活躍した生徒の表彰、高等学校卒業生の表彰を通じて、地域社会の活性化に貢献します

★本部表彰と支部表彰の区分を無くして本部表彰に一本化（二〇一九年度から）

◇若人交流◇

若人交流の場を設け、意見発表や討論等、地域社会の全体で共に置賜の未来を探る機会を提供します

●若人交流と置賜定着の推進

※(3)魅力ある郷土づくりの若人対話―地域を担う生き方の選択を支援し、地域振興の自発的な意見発表の場を設ける。置賜の自治体・各種団体等との連携を重視 ①置賜地方高校生小論文コンテスト ②若人フォーラムの実施

★置賜地区高校生小論文コンテスト「地域と私たちの未来を考える」第一―三回実施（二〇一八年度から毎年）

★若人フォーラム開催（二〇二〇年一月）

◇文化活動◇

文化講演会や文化大学等の活動を通じて、文化振興に貢献します。地域社会における文化諸活動との連携や協働を進めます

●文化活動の強化

※(4)米沢有為会の発信―米沢有為会創立百三十周年の歴史を掘り起こして発信 ①電子情報流通環境を活用してネット発信 ②会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊 ③置賜の図書館活動等と連携した展示会の開催 ④

明治創刊の有為会誌類のデジタル化

★会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊

(二〇二〇年)

★市立米沢図書館との共催で「有為会百三十年の歩み」展を開催(二〇二〇年六月)

★ホームページ内容更新と充実

☆インターネット百科事典ウィキペディアに独立項目「米沢有為会」の掲載

★戦前・戦後期の雑誌・会誌類等のデジタル化

◆我妻榮記念館◆

民法学者・我妻榮先生の生家を記念館として維持し、大先達の偉業を伝えます

地域振興に資する教育・文化諸活動の拠点として、記念館を活かします

●我妻榮記念館を文化活動の拠点に

★米沢市内小学五年生全員に我妻榮先生の功績紹介冊子の配布再開(二〇一九年度から)

☆長期計画のため、米沢市と共同で「我妻榮記念館将来計画検討会」開催(二〇一八年度から)

創立百三十周年記念事業等

創立百三十周年の記念事業・募金活動を通じて、この活動ビジョンの実現を目指します

○創立百三十周年記念式典等

●記念式典・記念講演会・祝賀会

※別途に各支部主催の「祝賀行事」を各地で開催

★記念式典・記念講演会・祝賀会を開催(二〇一九年六月二十二日、於…米沢)

★仙台支部(六月一日)と東京支部(六月二日)で記念講演会・祝賀会、北海道支部(六月三十日)で祝賀会を開催

○募金活動

(二〇二〇年三月末まで実施。)

★法人等会員、個人会員、寄宿舎生OB(寄宿舎OB会と連携)、奨学生OB/OGの各対象別に協賛金募集に対する協力を依頼

○会員増キャンペーン

(二〇二〇年三月末まで一区切り。以後も勧誘活動継続)

★「米沢有為会ご案内」(創立百三十周年版)リーフレット作成

★会員向けに会員勧誘のお願い

★寄宿舎生OB(未入会者)及び奨学生OB/OG(未入会者)向けに会員勧誘(寄宿舎OB会と連携)

★同郷会・同窓会との連携

★本部理事会メンバーへの働きかけ

★活動の成果として、二〇一九年度以降に合計五十九名及び一法人が新入会

○活動基盤の充実

～会員の交流と切磋琢磨を基盤に～

□会員

- ・会員の増強（女性会員増を含む）
- ・同郷会・同窓会との連携
- ・舎生・奨学生OB／OG会員増

- 会員の増強と交流の活性化

- ★会員増キャンペーンの項の通り
- *新入会員増数を逝去や高齢による退会者数が上回る実態

□財務基盤

- ・財務基盤の強化
- ・寄付の促進（税優遇措置の活用等）

●財務基盤の強化・寄付の促進

- ★貸与駐車場料金収入の見直し増（二〇一九年度から）
- ☆財務構造の把握と再構築

□支部活動

- ・会の活動の基本単位の強化
- ・会員交流の場としての活性化
- ・世代を超えた交流の場づくり
- ☆各支部の取組みとの相互連携強化

□会員交流

- ・ホームページ上の交流増
- ・趣味を通じ交流の多様化

- ★ホームページ上の「会員の広場」中に「寄稿広場」を新設、交流機会増

- ☆ホームページを通じた交流の深化

□広報発信

- ・ホームページの刷新拡充
- ・広報活動の強化

- ホームページによる発信の強化
- ☆内容の更新・充実を図ったが、引き続き充実して、ネット上の発信を重点に

□事務局

- ・本部事務局体制の整備

●事務局体制の整備

- ★本部事務局担当理事を中心に事務局新体制を構築中
- ★事務機器の更新による事務効率化

- ★事務室に共有ファイル・サーバ設置して文書管理等。セキュリティ管理しながら遠隔からの情報共有と事務効率化

- ★リモート会議（ZOOM方式）の導入

- ★特に東京支部の事務体制との協力・分担の明確化
- ☆事務マニユアル化の推進

創立百三十周年記念事業

『米澤有為会雑誌』類の

デジタル化事業

一、目的

明治二十二年創立以来百三十年以上にわたり刊行が続けられている米澤有為会の機関誌『有為会雑誌』『米澤有為会雑誌』『米沢有為会々誌』（以下、『米澤有為会雑誌』類と称する。）は、現在市立米沢図書館の貴重な郷土資料として閲覧利用に供されているが、その大部分は長く保存して閲覧利用に供する目的で、本会より一括して寄贈されたものである。

しかし、これら『米澤有為会雑誌』類は、紙媒体の宿命として、経年による劣化が急速に進んでいる現状にあり、体系的かつ抜本的な資料保存対策が必要とされている。

そこで、本会創立百三十周年記念事業の一環として最新技術によるデジタル化を実施し、市立米沢図書館の資料保存対策に資すると共に、今後の多面的な活用に使いたい。

二、デジタル化の概要

- 1 事業主体 公益社団法人 米澤有為会
- 2 事業期間 令和三年三月十七日～七月三十一日
- 3 対象資料

『有為会雑誌』第一号～第二十七号（一、一二頁）
 『米澤有為会雑誌』 第二十八号～第五一五号
 （二一、七一二頁）*欠号 第一五一～一六〇号、
 第二三七号、第三四七号、第四九一号
 『米沢有為会々誌』復刊第一号～第五十六号
 （六、六七五頁）

合計 二九、五九五頁

- 4 事業内容
 （注：第五十七号以降はホームページ搭載済み）

- 5 専門業者によるスキヤニングと電子データ作成

- 6 撮影場所
 専門業者の事業所内

『米澤有為会雑誌』類の借用
 市立米沢図書館に「資料借用申請書」を提出後
 特別許可を得て、四期に分けて借用

第一期 三月十五日～四月十五日
 第二期 四月十五日～五月十七日

第三期 五月十七日～六月十五日

第四期 六月十五日～七月十五日

7 受注業者の選定 専門業者（数社）にデジタル化事業企画提案及び見積の提出を依頼し、デジタル化事業実施委員会で比較検討して一社（ジースデザイン株式会社）を選定した。

8 予算 二か年度（二期）一体事業とした業者見積及び契約金額の見通しによる経費規模を二期に分割して各年度予算実行計画を策定して実施した。

三、デジタル化の実施内容

1 デジタル撮影機器 書籍専用スキャナー（オーバーヘッド方式）

2 撮影の仕方 見開き二ページを一コマに撮影

3 保存用画像データ 三〇〇dpi JPEG

4 画像の色 全頁カラー

5 納品 USBメモリ（六十四GB二セット）及びデータ明細資料

6 成果品の検査（有為会本部事務局）
7 検査終了後支払完了

四、デジタル化の成果の活用

1 米沢有為会における活用

本デジタル化事業の成果品を本部に設置されている共有ファイル・サーバに搭載し、本部及び各支部の役員等のアクセスが可能となった。

2 市立米沢図書館における活用

本会は市立米沢図書館に対して本デジタル化事業の成果品（USBメモリ六十四GB一セット）を「成果品納入通知書」を添えて寄贈した。

3 コンテンツ活用のための索引の整備

成果品の索引については、刊行年月単位の合体系PDFファイルの作成を八月中に終了し、本部共有ファイル・サーバに搭載するとともに、市立米沢図書館にもこのデータを提供した。

デジタル化事業実施委員会

委員長 手塚宮雄

委員 大滝則忠 加藤国雄

五雲寺卓 菊地隆雄

市立米沢図書館資料『米澤有為会雑誌』類借用計画書

		借用期間	書 籍 名	数量	頁数	備考
1. 全45巻 単冊 264冊	K 051 ヱ 1 -169	3/15～4/15	『米澤有為会雑誌』第1号～第169号	16巻	21,581	合綴製本 (単冊を含む)
	K 051 よ 6～ 58	3/15～4/15	単冊：6,7,9,10,28,29,53～56,58号	11冊		
	K 051 ヱ 170 -324	4/15～5/17	『米澤有為会雑誌』第170号～第324号	14巻		
		4/15～5/17	単冊：188,194～207,213～236, 238～307 309～313,315～322,	122冊		
	K 051 ヱ 325 -488	5/17～6/15	『米澤有為会雑誌』第325号～第488号	15巻		
		5/17～6/15	単冊：325～336,339～390,392,393, 395～407,409～427,430～438,443, 449～458、467,475,477,479～488	131冊		
2. 26冊	K 051 よ 489-500	5/17～6/15	『米澤有為会雑誌』第489号～第500号	11冊	1,242	単冊
	K 051 よ 501-515	6/15～7/15	『米澤有為会雑誌』第501号～第515号	15冊		
3. 1冊	K 281 Yo T13	6/15～7/15	『米澤有為会雑誌』第337号	1冊	97	名簿のみ
4. 4巻	113005232-5 113005231-7 113005229-1 113005228-3	6/15～7/15	『米沢有為会々誌』復刊第1号～第26号	4巻	3,511	合綴製本
5. 30冊	K 051 よ 復刊 第27号～ 第56号	6/15～7/15	『米沢有為会々誌』復刊第27号～56号	30冊	3,164	各号
				合計	29,595	

※書籍借用期間を4期に分類 (各期毎に、色分け)

- ①第1期 3/15～4/15 ②第2期 4/15～5/17
③第3期 5/17～6/15 ④第4期 6/15～7/15

G S Design

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一・定時総会（第八回、通算二三四回）の報告

公益社団法人米沢有為会の第八回（通算一三四回）定時総会は、令和三年六月二十六日（土）十四時より、昨年来のコロナ禍の中、役員のためのリモート会議で開催されました。昨年同様、正会員の皆様には、書面による議決権行使をお願いしました。

従って、例年実施されてきた総会後の講演会、懇親会等の行事は、昨年同様行いませんでした。また、功労者・特別顕彰表彰は翌六月二十七日（日）米沢で行われました。

総会は定款第十七条の規定により、大滝則忠会長が議長となり開会を宣言しました。初めに、有効出席者数について、現在の正会員数二四四名、当日出席正会員数及び議決権行使書提出会員数の合計一四三名、議決権行使書の無効は〇名、従って有効出席者数の割合は五十八・六％であり、定款第十九条の規定により本総会は成立している旨、五雲寺事務局担当理事より報告がありました。これを受け、議長が議事録作成を事務局に指

示し、議事に入りました。

第一号議案 令和二年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記載の「令和二年度事業・業務報告」に沿って加藤国雄総務部長が説明し報告しました。

第二号議案 令和二年度決算及び監査報告（決議案件）

議案書記載の「令和二年度決算報告」に沿って平山英三副会長より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、伊藤秀太郎監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 令和三年度事業・業務計画（報告案件）

議案書記載の「令和三年度事業・業務計画」について加藤国雄総務部長より説明がありました。

第四号議案 令和三年度正味財産増減予算（報告案件）

議案書記載の「令和三年度正味財産増減予算」に沿って平山英三副会長より説明がありました。

第五号議案 理事及び監事の任期満了による改選（決議案件）

定款規定により本定時総会終了と同時に理事、監事は任期満了になることから、役員選考委員会推薦の次の候補が満場一致で改選されました。

(一) 理事

重任 伊藤 和夫 加藤 国雄 甲 國信

菅野 憲幸 菊地 隆雄 五雲寺 卓

手塚 宮雄 平山 英三

新任 加藤 正憲 須貝利喜夫 滝口 政彦

森田 光雄 矢尾板 操 山口 昇一

横井 博

退任 大滝 則忠 川合 勝雄 鈴木 幸一

鈴木 信之 種村 信次 宮坂 孝夫

(二) 監事

重任 伊藤秀太郎 片平 善造

なお、新任理事の略歴は次の通りです。

(氏名) (略歴等) (所属支部)

加藤 正憲 平成八年米沢興讓館卒、旭化成ファーム(株)

勤務、本部諮問委員、東京支部理事 東京

須貝利喜夫 昭和五十年米沢工業高卒、矢野経済研究所

主席研究員 東京

滝口 政彦 昭和四十年米沢興讓館卒、元宮城県立高校

教諭、仙台興讓館館長、仙台興讓館OB

仙台

森田 光雄 昭和四十六年長井高卒、元大月税務署長、

森田税理士事務所長、東京川西会会長 東京

矢尾板 操 昭和四十三年米沢興讓館卒、元三菱銀行、

元米沢信用金庫 山形交通圏タクシー事業

適正化・活性化協議会会長、我妻榮記念館

館長 米沢

山口 昇一 昭和五十二年米沢興讓館卒、元米沢市産業

部長、東京興讓館OB 米沢

横井 博 昭和四十二年米沢興讓館卒、元米沢副市長、

元県置賜総合支庁総合企画部長、仙台興讓

館OB、奨学生OB 米沢

第六号議案 相談役推挙の件(報告案件)

永年本会理事としてご活躍いただき、米沢支部副支部長として高校生小論文コンテスト創設などに努められた種村信次氏を相談役に推挙しました。

二、第四回理事会

引き続き、第四回理事会が開催され、新会長に平山英三理事が選出されました。平山会長を議長として、次の人事を決議しました。

会長(代表理事) 平山 英三

副会長（代表理事）

加藤 国雄

総務部長

五雲寺 卓

地域振興部長

横井 博

育英事業部長

伊藤 和夫

文化広報部長

手塚 宮雄

以上を以て、リモート会議による総会、理事会は終了しました。

三、功労者、特別顕彰表彰式

表彰規則に基づく令和三年度被表彰者が、次の通り理事会において決定されました。表彰状及び記念品を贈呈する表彰式を、例年、定時総会に引き続いて開催していましたが、今年度も新型コロナウイルス禍の影響で、定時総会をオンライン会議方式で開催したため、六月二十七日（日）ホテルモントビュール米沢で開催の米沢支部総会において表彰状伝達式が行われました。

今年度は二個人に産業功労賞、三団体・二個人に特別賞が中川勝米沢支部長より伝達されました。

なお、教育文化功労者は該当者がいませんでした。

（以下、学校・学年は令和二年度のもです。）

○産業功労者（個人）

▼安房^{あな} 毅^{たけ}氏

平成四年九月、米沢商工会議所議員就任。平成十五年三月、常議員（当所役員）就任。そして平成十六年十一月から三期九年間、副会頭に就任し、会頭を補佐しながら米沢商工会議所の運営及び地域経済の発展に大きく貢献した。副会頭退任後は米沢商工会議所顧問として、現在も様々な面で指導的役割を担っている。

米沢地域の工業分野において、生産革新や技術力向上に注力。置賜地域の主要産業である、電子機器関連企業の技術力向上を目的とした「米沢電子機器機械工業振興協議会」の会長職をはじめ、自動車関連産業等地域活性化協議会の立ち上げにも携わり会長を務めるなど、米沢の「ものづくり」を牽引する指導的役割を果たしてきた。平成二十六年には従来の組織・事業を統合した「米沢新産業創出協議会」の設立に向け手腕を発揮。初代会長として産学官金連携の下、新産業の開拓・参入を通じて、地域内企業の技術・事業連携を積極的に推進した。

現在は、山形県中小企業団体中央会の会長、（一社）山形県国際経済振興機構会長、山形県工業会理事（直前会長）として、米沢地域のみならず、山形県内の産業界の活性化と発展にも大きく寄与している。

▼長谷川^{はせがわ} 健氏^{たけし}

平成二十五年四月、米沢商工会議所常議員、工業部会長に就任し、退任までの七年五カ月間、同所の運営並びに地域経済の発展に大きく貢献した。

同所工業部会長就任時から、当地域独自の「米沢地域共通鉛フリーはんだ付け技術認定制度」を継続実施し、域内の鉛フリーはんだ付け技術レベルの向上、標準化を図ることで企業相互の連携や受発注を促進した。

また、平成三十一年には、今後の工業振興に向け意思決定の体制をスリム化するため、既存の「米沢産業育成事業運営委員会」と「米沢新産業創出協議会」を再構築した新たな組織、「米沢ものづくり振興協議会」の設立（平成三十一年四月）に向け中心的な立場で尽力。同協議会の初代会長として、地域内の産学官金と連携しながら一体的に事業に取り組み、地域ものづくり企業の国内外での販路開拓、生産性向上を目的とした人材育成の強化、新たな事業の創出など、製造業の付加価値向上を図り相乗効果を産み出した。

外部団体では米沢電機工業会の会長（平成二十八年度、令和元年度）や、山形県工業会理事（平成二十五年～令和元年）を歴任。「ものづくりのまち米沢」実現のため、指導的役割を果たすとともに、地域産業の活力ある発展に大きく寄与した。

○特別顕彰 スポーツ活動

（優秀賞）（団体）

▼るーきーず（米沢中央高等学校 三年 佐藤賢明くん、遠藤将太くん、五十嵐道くん、結城鈴惟くん）

【三人制バスケットボール】3×3U18山形県予選・東エリアを勝ち抜き、日本選手権進出。優勝。全国制覇を達成。

○特別顕彰 文化活動

（優秀賞）（団体）

▼うめちゃんず（山形県立長井工業高等学校 三年 會田利亜奈さん、鳥取彩花さん、吉崎莉央さん、

松田結衣さん、梅津遥菜さん）

【ビジネスアイディア】第十九回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園 穴開け機能付き印鑑ケース「ぱん子」グランプリ受賞

（優秀賞）（団体）

▼山形県立置賜農業高等学校生物生産科 三学年

（角田智貴くん、沼尻琉人くん、高山千真くん）

【お米甲子園】第二十二回米・食味分析鑑定コンクール国際大会、第十一回全国農業高校お米甲子園、最高金賞

（奨励賞）（個人）

▼丹野 陽斗くん（長井市立平野小学校 三年）

【作文】公益社団法人「小さな親切」運動本部主催、

令和二年度「小さな親切作文コンクール」（小学生の部）
優秀賞

（奨励賞）（個人）

▼情野 凛々さん（米沢市立万世小学校 五年）

【作文】公益社団法人「小さな親切」運動本部主催、

令和二年度「小さな親切作文コンクール」（小学生の部）
優秀賞

四・新型コロナウイルス禍への対応

本年も、昨年来の新型コロナウイルス禍の中にあります。昨年同様、多くの本部・支部における集会行事は中止されましたが、会議は昨年よりリモート方式（Zoomによる）の導入によってほとんど支障なく、むしろリモート方式の利便性によって活発に開催されています。

リモート方式での理事会が定着したことにより、交通面の時間・費用が節約されることから、この度の役員改正では、役員数を米沢、仙台を増やし東京を減らすこととしました。

国民のワクチン接種が進みましたので、本部・支部行事の早期の再開が期待されます。

東京・仙台の興譲館寮も、当会や寮生OB会の支援、伊藤監事のご尽力により高性能空気清浄機寄贈を受け、ほとんど支障もなく運営されています。また、コロナ禍の中にあっても、東京興譲館では全個室の全面改修が、大滝前会長の指揮の下、本年九月滞りなく完成しました。



◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

昨年来のコロナ禍の中、本年も会議はリモート方式や書面で行われ、多くの集會行事等は中止となりました。

定時総会開催と関連行事の中止

例年米沢で開催する定時総会及び関連行事は、書面での議決権行使による参加とし、六月二十六日（土）の定時総会は、リモート方式で役員のみが参加して開催されました。総会後直ちに、新理事・監事による第四回理事會を開催し、平山新會長を選出しました。総会の議事等は前述のとおりです。

諮問委員會の開催と報告

諮問委員及び名誉會長・名誉會員・相談役各位に対し、討議資料として「最近の活動状況」報告を送付し、五月二十一日（金）までに、昨年同様、書面や電子メールでご意見・ご指摘をいただきました。後日『米沢有為會會報』第十九号に掲示しました。

ご意見・ご指摘は、整理すると以下の通りです。

*「詳細な資料で活動状況がよく分かった」、「會長以下の尽力に謝意」と、総じて執行部活動を評価。

*事務局員に欠員が出て事務局の強化が必要なことに對し、「世代が違う複数の理事・参事により円滑な継承ができる体制を」、「学生寮生を補助業務で活用を」。別に、最近の「管理・運営システムのデジタル化を高く評価、さらなる推進を」。

*會員増へ向けては、「本會事業の周知や参加促進を」、「同窓會や同郷會への働きかけ」、「寄宿舎生・奨學生OB・OGへの喚起を」、「支部活動を魅力的に」など。

*財務基盤強化に向け、會員増の他、寄付など収入の多様化を。

*育英事業に関して、「学生の人間形成面への関与」などキメ細かな対応を、など。

今後の執行部活動へ活かしてまいります。

理事会など会議のリモート化の定着

昨年十月より東京・米沢・仙台の全理事・監事を結ぶZoomによるリモート會議方式としましたが、それが定着し、その後の理事会、定時総会は、すべてリモート方式で実施しております。交通時間・費用の節約がなさ

れ、理事会や関連会議がかつてより頻繁に開催されるようになりました。

委員会活動

昨年度より引き続き、次の委員会を継続しております。適宜リモート会議を採用しております。

① 学生寮基本問題委員会

女子学生受入れや学生寮運営に関する基本問題を引き続き検討しています。

② 奨学金制度検討委員会

奨学金制度や財務面の基本問題を検討し、具体策を実行しています。

③ 学生寮改修委員会

創立百三十周年記念事業として、特に東京興譲館の改修工事を着実に実行しています。

事務局体制強化と情報基盤の整備

① 事務局業務体制の強化

従来理事一人の本部事務局体制に更に理事一名及び参事二名を追加し、業務体制の強化を図りました。特に会員管理業務や会計業務及び奨学金貸与・返済業務人員を

強化しました。

② 情報基盤の整備

本部役員の情報共有を強化する目的で昨年共有サーバーを導入しましたが、今年度はサーバーに接続されるルータの性能向上（IPv6化）を図り、利便性と業務効率化を高めました。また、東京興譲館の光回線を従来の200Mbpsから1Gbpsへ五倍高速化して寮生のオンライン授業への利便性を図りました。

○ 育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集について、地元高校の保護者・生徒への説明は、例年六月下旬から七月中に進学者の多い三校を対象として、学校の保護者向け進路説明会の中で若干の時間をいただき実施しております。今年度はコロナ禍の影響で開催しない学校や推薦入試への対応を早期に行うため保護者説明会を五月中に実施済みの学校もあり、長井高校一校のみ実施しました。また、育英事業の募集要項概要を記載した「米沢有為会だより号外十二号」のパンフレット（カラー版）を作成し、説明会で利用する

とともに、その他の学校には送付して広報に努めました。

令和三年度採用の奨学金貸与生は「奨学生だより」に掲載し、学生寮入寮生選考結果は別表1のとおりです。

奨学金貸与生選考の報告と課題

奨学金制度の質的向上を目指し、創立一三〇周年活動ビジョンに掲げた新奨学金制度を、令和二年四月採用の奨学生募集から実施し、令和三年四月採用の募集は二年目となりました。その新制度の要点は、男女共同活躍社会の実現を後押しするために貸費型の「女子向け住居費補助奨学金」（Ⅰ型）、また、学業を終え郷土に就職して郷土置賜を担う人材の育成を目指す減免型の「地元若者定着奨学金」（Ⅱ型）を新たに創設し、従来の貸費型の「一般貸費奨学金」（Ⅲ型）と共に、より充実した奨学金制度で育英事業を進めております。

今年度は定員六名に対し応募者が少なく、大学生一名の応募（Ⅲ型）となりました。十一月七日置賜総合文化センターでの教育委員による面接、十一月十五日開催の本部理事会審議を経て、採用候補者とし、その後大学合格となった時点で奨学生に採用決定となりました。採用奨学生の応募時の作文「私の志」を「奨学生だより」に

後掲しています。

全体として応募者が少なく、育英事業の受け入れ幅があるにもかかわらず活用されないことについては残念な結果でありました。応募者数については近年の傾向として少なく経緯しており、他の奨学金などの中で本会奨学金は「無利子であることの有意性」をPRし、一つの選択肢として活用されるように努めていきたいと思えます。なお、本会の奨学金制度の基本構造としては、引き続き、貸与と返還が一体で循環するものであり、貸与時から奨学生とは今までも密な関係を保ちながら運営をしていきたいと思えます。

学生寮入寮生選考の報告と課題

今年度の募集定員は東京が六名程度（通常募集三名程度、予約募集三名程度）、仙台が十名程度（通常募集六名程度、予約募集四名程度）で、新型コロナウイルス感染症防止のため、入寮希望者との面接を初めてオンラインで実施しました。入寮希望者が会場（米沢…置賜文化センター）に集合し、面接官が東京、仙台にいて、順にオンライン面接を行いました。今年度、東京寮には六名の応募、仙台寮には一名の応募があり全員選考しました。

特に仙台寮においては残念ながら入寮希望者が少なく、現在の寮生は七名で十五名の定員から程遠い状態が続いており、大きな課題となっております。広報活動は種々行っており、高校側には届いているものの、入寮の決断を促すまでには至っておりません。この事態を改善すべく、急遽年度途中において現在の在仙学生とその保護者に向け入寮者募集の新聞広告（山形新聞紙上）を出しました。しかしその反応はありません。引き続き改善を図るべく学校へのPRを工夫していきたいと思えます。

また、女子学生の修学環境を整備するために、懸案であります東京興譲館に女子学生の受け入れを進める事業については、東京寮のリフォーム後の施設設備の状況を東京在住の現役女子学生に見てもらい改めてニーズの有無の確認を進め、さらに東京にある他の男女共住学生寮の調査などを通して、その可否を決めていく方向で取組をしていきます。

さらに、施設の整備については、創立百三十周年記念事業として、ほぼ十年ぶりとなる学生寮の大規模改修に段階的に取り組んでおります。令和元年度に仙台寮の改修工事が終了、令和二年度は九月に新寮母が着任し、トイレの改修や不具合箇所の改修を行い、今年度も不具合

の排水管や洋式トイレへの交換などの工事を進めます。東京寮は令和二年度に寮室窓サッシ取付や外壁タイル落下防止などの第一段階工事を終え、今年度は室内リフォームの第二段階工事を終了しました。来年度以降は寮室入り口ドア交換や厨房工事等を行う予定です。両寮における多年度にわたる改修工事によって、勉強環境を一層向上させ、安全・安心の施設環境を提供できるようになりました。

来年度の募集要項の概要

令和四年度の募集要項の概要は、別表2のとおりです。有為会会員の皆さまには、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。



(別表1) 令和三年度奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生：「奨学生だより」(三十四ページ)に掲載

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出身高校・大学	出身地
1	志 田 隆太郎	早稲田大学院会計研究科	院 1 年	米沢中央高校、同志社大	米沢市
2	三 浦 稜 太	國學院大学経済学部	3 年	山形市立商業高校	山形市
3	伊 藤 翔 大	一橋大学社会学部	1 年	長 井 高 校	川西町
4	志 田 鈴乃丞	明治大学情報コミュニケーション学部	1 年	米 沢 中 央 高 校	米沢市
5	宮 田 耕 平	成城大学経済学部	1 年	九 里 学 園 高 校	米沢市
6	萩 原 斗 和	東京学芸大学教育学部	1 年	米沢興讓館高校	米沢市

なお、七月に志田隆太郎と志田鈴乃丞の二名が大学に近い所へ移りたいという理由で退寮しました。

② 仙台興讓館

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出身高校	出身地
1	日 下 和 也	東北医科薬科大学薬学部	1 年	米沢興讓館高校	高畠町

(別表2) 令和四年度育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生募集要項
当会の奨学金(無利子)は以下の通り三種類あります。

種 類	名 称	募集対象者	定員	貸費額等
I 型 (貸 費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2 名	月2万円貸費
II 型 (減 免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2 名	月4万円貸費、うち2万円減免
III 型 (貸 費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2 名	月4万円貸費
応 募 資 格	置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者 (1) 令和4年4月大学入学予定者または在学生 (2) 健康かつ学業優秀で将来性ある者 (3) 経済的理由により就学が困難である者			
奨 学 金 の 返 還	貸費終了翌年度より、I型及びII型においては月額1万円を、III型においては月額1万5千円を本会に返還する。			

面接選考日・場所	令和3年11月6日（土） 午後1時 置賜総合文化センター（米沢市金池3-1-14）
採用候補者及び 決定通知	令和3年11月に採用候補者を決定し、また、その内の大学又は大学院合格者をもって3月に理事会で 正式に決定し、応募者に通知する。

2. 学生寮入寮生の募集要項

募集は大学合格前に予約内定する場合（予約募集）と大学合格後に採用決定する場合（通常募集）の二通りで行います。なお、通常募集は合格発表前に応募が可能です。

寮名	所在地	応募資格
東京興譲館	東京都調布市入間町1-36 （新宿駅より約40分）	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ） 以下の条件のいずれかを満たす者 （1）置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 （2）有為会会員1名以上の推薦を受けた者 合格発表前の応募可
仙台興譲館	仙台市青葉区角五郎2-6-21 （中心市街地まで約3km）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ）

募 集 人 員	寮 費 (月 額)	面 接 日・場 所	面 接 方 法
予約募集 5名程度 通常募集 5名程度 全室個室(定員24名)	朝夕2食付き(ただし土曜・日曜、祝日を除く)、光熱費・水道代等を含む 50,000円 ＊在寮生の人数によって寮費が異なる場合があります。	△通常募集▽ 1月9日、2月27日、3月10日、3月23日 いずれも米沢会場 △予約募集▽ 2月27日	コロナ感染防止のため、オンラインによる面接を行う。
予約募集 4名程度 通常募集 6名程度 全室個室(定員15名)			

○地域振興部

年次計画に沿って事業活動を行いました。

まず、表彰については、産業功労者として株式会社タカハタ電子代表取締役会長の安房毅氏及びフジクラ電装株式会社元特別顧問の長谷川健氏の二名です。安房氏は置賜地域の主要産業である電子機器関連業界の進展に指導的役割を果たされました。長谷川氏は米沢商工会議所工業部会長や米沢ものづくり振興協議会の初代会長として技術の向上や人材育成等に貢献されました。

特別顕彰者については、スポーツ活動の優秀賞は一団、文化活動優秀賞は二団体、奨励賞は二名、計三団体二名の表彰が行われました。内容は本部活動報告の中で詳しく紹介しております。

また、高等学校卒業生表彰は置賜地区内の高等学校十三校から特に優れた卒業生、各校一名の推薦を受けて表彰しました。表彰については、米沢支部教育部長が各高等学校を訪問し校長に表彰状の伝達をお願いして実施しました。

令和二年度高等学校卒業生表彰

(令和三年二～三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、

生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。受賞者は次の通りです。

安部 央人	米沢興譲館高等学校	(米沢市)
勝見 歩可	米沢商業高等学校	(川西町)
高橋 剛流	米沢工業高等学校	(米沢市)
齋藤 結	米沢東高等学校	(川西町)
金子 夢生	米沢中央高等学校	(高島町)
堀越 貴璃	九里学園高等学校	(川西町)
影山 南央	南陽高等学校	(長井市)
飯澤 理佳	長井高等学校	(長井市)
飯澤 美岬	長井工業高等学校	(長井市)
重野 皓汰	置賜農業高等学校	(米沢市)
高橋 大智	高島高等学校	(南陽市)
新野 悠	荒砥高等学校	(長井市)
今夢々花	小国高等学校	(小国町)

第四回小論文コンテスト

次に、第四回小論文コンテストでは、例年どおり置賜地区の高校二年生を対象として、「人口減少社会の中でも活き活きと持続していく地域とするためには」をテーマに実施しました。今回もコロナ禍の影響を心配してい

ましたが、例年に並ぶ総数九十七点の応募がありました。その中から慎重な審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点の計十点を表彰しました。併せて、『優秀小論文集』を発行し、各高校や関係団体等へ配付しました。受賞者は次のとおりです。

最優秀賞 小国高等学校
優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

小国高等学校
米沢商工会議所会頭賞

南陽高等学校
置賜経済人クラブ会長賞

米沢興譲館高等学校
米沢信用金庫理事長賞

米沢東高等学校
入選

南陽高等学校
米沢東高等学校
小国高等学校
米沢興譲館高等学校
高畠高等学校

和田彩日香

垂水 珠那

安部 華蓮

樋口 蓮巳

高橋 凜

青木 琉羽

安部 朱音

木幡 泉希
平吹 雪羽
星 万葉

○文化広報部 ホームページの更新

六月の定時総会で役員改選案が承認された結果、文化広報部では、総務部長に就任した五雲寺卓理事の後任に須貝利喜夫新理事を迎え、ホームページ（HP）を担当していただくことになりました。HPは今年度も山形県立米沢工業高等学校専攻科と連携協力の下、逐次更新され本会の様々な活動が蓄積されていますので、ぜひご覧ください。

『米澤有為会雑誌』類のデジタル化事業の実施

創立百三十周年記念事業の一環としての本事業は、平成元年十月一日本会より市立米沢図書館に寄贈された戦前・戦後期の『米澤有為会雑誌』類を紙ベースからデジタル資料として保存しようとするもので、令和二年十一月一日（日）の第四回理事会での準備進捗状況報告を皮切りに、「デジタル化事業実施委員会」を立ち上げ、十一月から今年三月上旬まで五回の委員会協議を経て、専門業者を選定し最終的にジーエスデザイン株式会社と契約しました。その後、三月半ばから七月まで四期に分けて雑誌類を図書館から借用し、同社で撮影が行われま

した。市立米沢図書館のご協力に厚く御礼申し上げます。
なお、この事業の成果物の閲覧は、当面、巻号・頁順毎に作成されたデジタル・ファイルを順次検索する方法によりますが、今後の課題として、より多面的な活用を図るために、内容記事索引の整備が残っています。

Zoomによるリモート会議

二年近くにわたる新型コロナウイルスの影響で、東京での理事会や米沢での定時総会などの諸会議が対面式でできなくなった結果、初めは書面会議を行っていました。が、五雲寺理事のお世話で令和二年十月十一日（日）の第三回理事会からZoomを利用したリモート会議となり、現在まですべての会議がこの方式で続けられています。なお、このリモート会議の効果については、三十三頁の「米沢有為会リモート会議のお薦め」をご覧ください。

『優秀小論文集』の発行

第四回目を迎えた置賜地区高校生小論文コンテスト（地域振興部担当）は、今年度のテーマを「人口減少社会の中でも活き活きと持続していく地域とするためには」と設定して、地区内の高校二年生を対象に募集した

ところ、九校から九十七点の応募がありました。厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点が選ばれ、この十点を『優秀小論文集』にまとめ発行しました。十一月七日（日）伝国の杜で行われた表彰式で受賞者や出席者に配布し、後日学校や関係者に送付しました。なお、本誌には最優秀賞と優秀賞の五点の他、平山英三審査委員長の「審査講評」や表彰式の模様などが掲載されています。

『米沢有為会々誌』第七十一号の発行

戦後の一九五二年、第一号を復刊した本誌も今年度第七十一号を数えました。今年もそれぞれのご担当からご寄稿いただき厚く御礼申し上げます。ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、定時総会時の講演や、文化大学、支部や寮の行事など多くの事業が軒並み中止に追い込まれ甚だ残念でなりません。今後はワクチン接種の一層の普及や継続的な感染防止対策、規制緩和等により、徐々に活発な活動が再開され、次号会誌へのご寄稿につなげていただけるよう願っております。



米沢有為会 文化大学の再開（予告）

コロナ禍で二年間の休講中の文化大学を、令和四年新春にリモート型（Zoom）で再開します。準備でき次第、詳細をホームページ上でご案内いたします。

インターネットのメール宛先を登録をしていただければ、全国ご自宅から動画でご聴講いただけます。集会型は、コロナ禍の終息後に再開する予定です。

（文化広報部・文化大学事務局）

管内高等学校校章



県立米沢興譲館
高等学校



県立米沢東
高等学校



県立米沢工業
高等学校



県立米沢商業
高等学校



県立置賜農業
高等学校



県立南陽
高等学校



県立高畠
高等学校



県立長井
高等学校



県立長井工業
高等学校



県立荒砥
高等学校



県立小国
高等学校



基督教独立学園
高等学校



学校法人九里
学園高等学校



学校法人米沢
中央高等学校

米沢有為会リモート会議のお薦め

米沢有為会は、昨年からズーム（Zoom）を使用したりリモート会議を始めましたが、その間理事会ははじめ各種の会議でリモート会議を行っています。参加者は当初使用に戸惑いもありましたが、最近では自然に受け止めるようになってきており、リモート会議が定着化しています。

リモート会議を行うようになってから米沢有為会の活動状況に次の変化が見られるようになりました。

（一）従来遠方まで出かけて参加していた会議が殆ど無くなり、参加者の移動時間と交通費が大幅に削減できました。特に交通費は、年間の会議回数は増えているにも拘わらず、前年度比で約五分の一に減少しました。

（二）臨時の会議や少人数の会議に素早く対応出来るようになり、参加者は端末が身近にあればどこに居ても即座に参加することが出来るので会議の自由度が上がりました。当日大雪で入寮面接会場に来られなかった学生の自宅パソコンをZoomで急遽繋いで面接を行った事例もありました。

（三）容易に会議が設定できることから集中審議が可能となり、これにより当会内の意志決定が早くなりました。

リモート会議は以上のような利点を持つ反面、会議の回数が増える傾向にあることや、会議時間が長くなる傾向があることなど、今後改善に向けて考慮しなければならない点があります。

次に、リモート会議をより効果的に活用できる方法をご紹介します。既に活用している方もおられるかもしれませんが、これからZoomを使ったりリモート会議を始める方にはお薦めです。第一に、画面共有機能を利用する方法です。画面共有とは自分のパソコンに表示されている画面をそのまま参加者全員のパソコンにも表示する機能です。各自のパソコンに表示された同じ画面を見ながら会議を進めることができるので効率的であり、また予め資料を印刷する必要もないので経済的です。更に、この機能を応用して講演会を行うことができます。コロナ禍ではオンライン講演会が盛んですが、この機能を利用して多くの視聴者が在宅のまま講演会に参加できるようになりました。第二に、会議状況を、レコーディング機能を利用して録画する方法です。重要な会議等は録画しておけば臨場感のある記録として残すことができます。また、会議の議事録をまとめる上でも便利です。以上、二つの方法を紹介しましたが、この他にも便利な機能が多くあります。それらを自由に使いこなしてリモート会議を豊かにすることをお薦めします。

奨学生だより

一、今年度の新奨学生

次の学生が今年度の新奨学生に選ばれました。

Ⅲ型 齋藤なごみ（山形県立米沢商業高等学校）

東北福祉大学 総合福祉学部

今年度はお一人でした。ようやくコロナ禍も第五波が収まってきましたが、このほぼ二年に渡る生活の変化は、学生生活にも深刻な影響を及ぼしています。

いくらパソコンが普及し、リモートによる授業が可能になったとは言え、対面による授業にはかきません。人間がお互いに表情を見て汲み取る情報は計り知れないものがあるからです。それはマスク着用が常態となつてからのことを考えてみれば、誰にとっても思いあたることです。顔半分が見えない状態では、何度会つても相手の印象が残りません。ましてリモートの画面では細かな表情がわかりません。対面して相手の表情を見て、その息遣いを感じながら切磋琢磨する学生生活に、早く戻つてほしいと願っています。

二、本会の奨学金について

「奨学」という言葉は決して古くからある言葉ではありません。それに対して「奨労」という言葉は早くから使われてきた言葉です。この漢語は唐代の白居易の親友であつた元稹の詩にも見え、「労働を勧めるのは、官位や俸禄を上げることができるからである」などと官僚を奮い立たせるときに、「労働を勧める」意で使用されています。

では「奨学」はどんな言葉なのでしょう。唐代と時空は隔たっていますが、その言葉には「奨労」と同じような臭いが付き纏つて離れません。そこには近代流の「官位や俸禄」を上げるための期待が見え隠れするのです。もうそろそろ、「身を立て名を挙げ」というような徳目だけをよしとして、それをただひたすら目指すようなことから解き放たれるべき時期です。有名になつて多くの富を蓄えるだけが価値のある生き方ではないでしょう。本会の「奨学金」は、無名でもかまわない、時には毎日の生活に追われるかもしれないが、それぞれの持ち場でしっかり社会を支え、誠実に生きてゆく有為な人間を育てるものではないでしょうか。そのために役立つ奨学金であつてほしいと思います。

「私の志」

令和三年度奨学生

「私の志」

(貸与開始奨学生) 齋 藤 なごみ

私は養護教諭になるという志を持って大学に進学します。進学希望先である東北福祉大学には養護教諭になることのできるコースがありますが、定員が五十名と少なく、狭き門です。さらに資格を取得し卒業しても、国語や英語などの教員と違い、採用の人数も年によって、また県によって差があり、可否は受けるタイミングによって左右される狭き門であることもわかりました。

この難関に挫折したり、失敗したりしないために、私は高校在学中から勉強に力を入れ、大学での学習にスムーズに移行できるように基礎を固めようと決意しました。私は一度決めたら必ずやり遂げる性格です。この自分の中の決め事を必ず達成できるように、大学四年間を有意義に過ごし、棒に振ることのないように充実させたいと思います。

今回米沢有為会から奨学金をお借りすることができれば、大学入学後も心にゆとりを持って勉学に集中できる

と思っています。夢を叶えるための四年間にします。

「私にとつての奨学金」

(返済開始奨学生) 今 野 莉 妃

夢を持ち、勉強をする為に入学したのは私立の大学でした。私には兄弟が三人いて私は真ん中です。兄は大学生、妹も大学進学を考えていました。

高校時代を振り返ると、私が進学を決めたのは遅かったように思います。そのため両親は兄弟皆が大学へ進学するとは想像もしていなかったはずです。私が大学に入學しても、県外の一人暮らし。妹の進路も控えていたので、家庭も私自身も経済的に苦しいのは想像できました。

それでもどうか子供が希望する道に進めるようにと、母が米沢有為会さんの奨学金制度を見つけてくれ、進学が叶いました。奨学金があればアルバイトと勉学の両立はできなかつたと思います。

今は就職して返済にあたっていますが、無事に大学を卒業できたこと、兄弟も夢に向かって勉強できていることが喜ばしく、誇らしいのです。私だけでなく、家族がこの奨学金に支えられていたことを実感しながら日々過ごしています。

支部だより

東京支部

令和三年度の四月以降の東京支部の活動状況を報告します。

▲鈴木信之東京支部長が退任し後任に菅野憲幸氏が就任

支部理事会で鈴木信之氏から本部理事を退任するに当たり支部長辞任の申し出があり審議の結果承認され、令和三年三月末で米沢有為会を退会されました。鈴木信之氏は鈴木会計事務所の代表であり法人会員でした。財務の専門家として現会長の平山英三氏と一緒に内閣府から公益法人の認可を受けるために尽力されました。東京支部の行事などでも中心となって活動されました。私が本部の事務局を担当しているときもサポートしてくださいました。東京支部にとって大きな痛手です。十六年もの長い間米沢有為会本部・支部の活動をなされ本当にご苦労様でした。感謝の気持ちで一杯です。令和三年度の新役員による最初の理事会で支部長に菅野憲幸氏、副支部

長に川合勝雄氏（留任）、太田勇氏の二名が選出されました。

▲東京興譲館長の交代

川合勝雄館長は八年間館長を務めました。その前に金子芳雄館長、沼澤研一館長のときに副館長を務め通算二十八年になります。本部理事を退任するに当たり、館長も長く勤めれば良い訳でもないので新しい方に交代してもらうために退任することにしました。本部理事会で後任の館長に菅野憲幸氏が選出されました。

▲平成三年度支部総会・新入寮生歓迎会

コロナ禍のため東京支部の「定期総会」は議決権行使書によって議決を行う事になりました。令和二年度の事業及び決算報告、令和三年度の事業計画（案）、予算（案）及び役員改選（案）は、賛成多数で承認されました。東京興譲館は六名の新入寮生を迎えました。残念ですがコロナ禍で支部の新入寮生歓迎会は中止となりました。新入寮生の兄弟二名が都合により退寮しました。

▲コロナ感染防止のため園遊会も中止

会員やそのご家族・お友達の方が楽しんでいる卒業会もコロナ感染防止のため中止としました。

▲東京興譲館の改修工事について

創立百三十周年記念事業として、学生寮の改修工事の取組の一環で、東京興譲館寮の大規模改修工事を実施しております。昨年は第一段階として、窓サッシ取付、外部壁防水・塗装等を行いました。今年は第二段階として、寮室リフォーム（和室からフローリング化、床下根太更新、遮音対策、押入れ改装等）を六月下中から開始し九月中旬で完了いたしました。

勉強環境を一層向上させ、安全な施設環境を増進させてゆきます。会員の皆様から頂戴いたしました浄財を使わせて頂き、改めて感謝申し上げます。

▲東京支部会員数（令和三年十月現在）

正会員数 一〇一名

個人賛助会員数 一三九名

法人賛助会員数 五法人

会員の高齢化によって退会者（逝去された方を含む）が増えて会員数が減少しています。

▲訃報会員

ご生前のご協力に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

（ ）内は命月

田中 駒男 様（平成二十九年十二月）

斎藤 定雄 様（令和二年 二月）

藤田浩一郎 様（令和二年 九月）

渡辺 春夫 様（令和二年 十月）

小関 昌幸 様（令和三年 三月）

槇山 信三 様（令和三年 四月）

川合 勝雄 記

興譲館寮の改修作業

六月十五日～九月十五日



米沢支部

令和三年度米沢支部の上半期活動状況を報告いたします。

○四月二十二日 米沢支部長と打ち合わせ

午後一時三十分から市長応接室にて開催。令和三年度・四年度の米沢支部役員体制について打ち合わせいたしました。

○四月二十二日 教育・産業功労者選考会議

午後二時から米沢市役所七〇一会議室にて開催。併せて賞状原文作成を分担し依頼しました。

○四月二十七日 米沢支部監査

午後一時から米沢市役所三〇一会議室にて実施。令和二年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査していただきました。

○四月二十七日 米沢支部専門部正副部長会議

午後六時からアクティ米沢大会議室にて開催。令和三年度・四年度の専門部体制について協議いたしました。

○五月十七日 第一回理事会

午後二時から米沢市役所庁議室において開催。内容は、令和二年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する庶務・事業報告・決算報告・事業計画（案）・予算（案）を了承。また、理事・諮問委員の定時改選（案）並びに令和三年度事業計画（案）及び予算（案）を支部総会に提案することに決定。さらには令和三年度表彰者について教育・産業功労者表彰の選考結果を報告し本部へ提案することです了承得ました。

○六月二十七日 支部総会・第二回理事会

午後三時からモントビュール米沢において開催。会員三十三名出席の中、中川勝支部長挨拶の後、議事に入りました。令和二年度支部庶務・事業報告及び決算が承認され、理事の定時改選（案）が審議され、原案どおり議決されました。その後、総会を中断し、

臨時理事会を開催、支部長・副支部長の互選と常務理事及び諮問委員の選任を決議し総会を再開。

令和三年度事業計画（案）、予算（案）が審議され、原案どおり議決されました。さらに我妻榮記念館に関する議案を審議し承認されました。

○六月二十七日 令和三年度産業功労者表彰 表彰状
伝達式

午後四時からモントビュール米沢において開催。

例年、本部総会開催の折に表彰式を開催していましたが、今年度も新型コロナウイルス禍により本部総会が書面にて開催したことから表彰状伝達式として、午後四時からモントビュール米沢で開催。米沢支部長から産業功労者、特別顕彰者に伝達いたしました。

○七月一日 常務理事事務引き継ぎ

遠藤前常務理事から菅野常務理事へ事務の引き継ぎを行いました。

○七月十六日 我妻榮記念館第一回運営委員会

我妻榮記念館にて実施。記念館開館三十周年（令和

四年度）及び我妻榮先生没後五十年（令和五年度）に係る事業について、協議しました。

○七月二十一日 第一回副支部長会議

我妻榮記念館にて開催。支部だより（第四十二号）の発刊、我妻榮記念館開館三十周年及び榮先生没後五十年に係る事業について協議しました。

○七月二十三日 第一回文化広報部会

我妻榮記念館にて開催。支部だより第四十二号の発刊、有為会誌復刊第七十一号について協議しました。

○七月二十九日 第一回米沢支部運営会議

市役所庁議室にて開催。支部だより（第四十二号）の発刊、我妻榮記念館開館三十周年（令和四年度）及び榮先生没後五十年（令和五年度）に係る事業、支部講演会及び高校生小論文コンテストの表彰について協議しました。

○九月三日 令和三年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会①

市役所会議室にて開催。応募状況の報告、審査の進め方、審査要綱等の確認し、審査の分担を決定しました。

○九月六日

伊藤代表副支部長、横井副支部長、佐藤副支部長、遠藤総務部長及び菅野常務で電子メールによる協議の結果、十一月七日開催予定の支部理事・諮問委員合同会議、講演会及び交流芋煮会については新型コロナウイルス感染症予防対策のため、昨年に引き続き中止することになりました。

○九月九日 令和三年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会②

市役所会議室にて開催。一回目の審査について情報交換し、二回目の審査分担を決定しました。

○九月十七日 令和三年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会③

市役所会議室にて開催。審査のまとめ、審査の感想・意見等を交換しました。

○九月二十八日 令和三年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会④

市役所会議室にて開催。審査結果のまとめ、各賞の確認・決定を行い、今後の取り組みを協議しました。

○九月二十九日 我妻榮記念事業事務局会議

我妻榮記念館にて開催。記念館開館三十周年（令和四年度）及び我妻榮先生没後五十年（令和五年度）に係る事業について、事務局内でまず検討することとし、現状と今後の進め方、事業の内容・名称、要綱、予算等について協議しました。なお、会議は、当日を第一回目として、第二回目十月十四日、第三回目十月二十一日、第四回目十月二十八日と開催しております。

○十月二日 支部だより第四十二号封入作業及び発送

○十一月七日 令和二年度置賜地区高校生小論文コンテスト表彰式

午前十一時から伝国の杜にて開催。

遠藤善則・菅野智幸 記

仙 台 支 部

コロナ禍により、仙台支部は令和二年度に続き今年度も支部総会はじめ会員交流行事を開催することができませんでした。令和三年十月末現在、感染は収まったかに見えていますが、このまま感染が収束し一日も早く元の状態に戻ることを願っています。紙幅の制限がありまですので、大きな問題を抱える仙台興譲館の昨年から一年間の近況を中心に、支部の様子を報告させていただきます。

▲仙台興譲館の近況

コロナ禍が始まって以来、幸いにも仙台興譲館に感染者や濃厚接触者は出ておりません。しかし、新規入寮者が少なく、寮生数が定員十五名のところこれまでで最も少ない七名にまで減少し、寮の運営に赤信号が灯るという問題が起きています。

コロナ禍により、置賜の高校における興譲館寮の説明会の開催が難しくなっていますが、それを補うために昨令和二年末、滝口館長が仙台興譲館の案内動画を作

り、You Tubeにアップしました。サイトには三百五十名の訪問者がありました。令和三年春の応募者は二名、入寮者は一名にとどまりました。

事態改善のために、八月に山形新聞の簡易広告（スイング）に中途入寮生募集の広告を掲載しましたが反応はなく、結局有為会から百万円を超える援助を受けることになりました。

百三十周年記念事業としての仙台興譲館の改修は令和元年に実施済みですが、二年度には当初予定していなかった工事を行っております。十月に新寮母を迎えるにあたって、女子専用トイレ（洋式）を設置し、また、十二月には、厨房の床下の排水管が損傷し漏水が発生したために、緊急工事を行いました。

三年度は前年度の工事の際に老朽化していることが判明したトイレの接続配管の交換、ほとんど使用していない和風トイレの洋式への改造、厨房の排風機の交換等を考えていました。しかし、寮生の減少により、会から多額の援助を受けなければならない状況に加えて、東京寮の改修が進行中であることを考慮し、今年度の改修は先送りすることにいたしました。

▲会員の皆様へのお願い

支部にとって寮生不足の解消は当面する最大の課題です。寮生会とも連携し寮生の増加に努力します。この問題は速やかに解決し、大きな問題に発展しないようにしなければなりません。つきましては、会員の皆様にもお力添えをお願いいたします。

コロナ禍の影響で収入が減り、家計への教育費の負担を極力抑えたい家庭は少なくないと思います。皆様の周囲に、仙台で修学を希望する学生や、仙台で学んでいる学生をお持ちの家庭がありましたら、ぜひ仙台興譲館をご案内いただきたく思います。置賜地区以外の出身者でも会員の推薦があれば入寮できます。関心を示された方には、ぜひ仙台興譲館に問い合わせるようにお勧めください。

▲会員異動

昨年の総会以降、退会者が続出し、会員は八名と一社減となりました。この会員減は平成二十五年の公益社団法人移行の翌年（平成二十六年、退会者十四名）以来の大幅な減少です。

これまで長い間会を支えて来られた会員の方が高齢と

なつて退会されています。今後この傾向はますます強まることが予想されます。会員増強が課題となりますが、新規入寮者の減少は、入会する保護者の減少にもつながっています。会員増強については、十分な取り組みができないうちに年末を迎えることになり、こちらも大きな課題となっています。

▲支部だよりの発行

コロナ禍の下での支部からの情報発信と会員間の交流に、支部だよりは重要な役割を果たします。今年度も手作りで二回の発行を予定して、二回目を準備中です。

甲 國信 記



令和3年9月13日夜、寮のすぐ近くにある牛越橋付近の広瀬川でカゲロウが大発生し、橋の照明に誘われて飛来し、橋上に雪のように降り積まりました。これまで、寮付近でこのような事象が発生したことを聞いたことがありません。

（寮生 鹿又桂司君撮影）

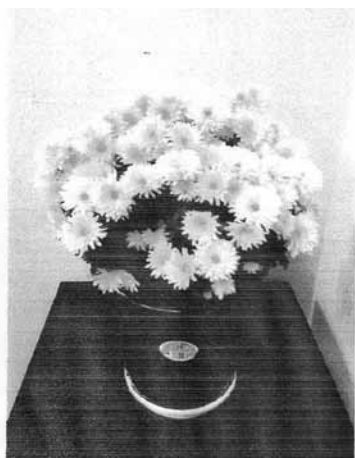
北海道支部

満二年に渡るパンデミックの中、通常であつてもなかなか思うような活動が出来ないでいる我々有為会北海道支部は、現在、全くの休止状態にあります。

北海道支部の問題点のひとつとして、会員の高齢化、自然減少等もありますが、北海道という遠隔地であるが故に、本部との交流も少なくなり、また会員個々に関しても、徐々に故郷への求心力が低下している事も大きな要因であると考えられます。

最近は落ち着きを見せているコロナ禍は今後どうなるのか？この状況が好転できるということになれば、一日も早い時期に会員の皆さんと総会を開催し、親交を深める行事等を実現させたいものと願っているところであります。

田村邦夫 記



〔イボラ〕



〔トリニン〕

北海道支部顧問 佐藤 豊氏より丹精込めて作られた菊の花をいただきました。

興讓館寮だより

東京興讓館

後藤 洵

日頃より寮の運営、私たち寮生の支援にご尽力頂いている米沢有為会の皆様に、令和三年度の東京興讓館の近況をご報告致します。

今年三月には六名の寮生が卒業しました。三名が山形に戻り、他三名は東京や福島で就職し、新生活を始めています。一方、今年度は六名の新入寮生を迎え、新体制での寮生活が始まりました。四月には、大学の運動部で新型コロナウイルスの濃厚接触者となったしまった寮生の隔離という大きな出来事がありました。二週間の間、寮母さんや同階の寮生が部屋まで食事を運び、同じ流しやトイレ、洗濯機を使用しないことなどの対応をとり、この期間を乗り越えることができました。六月には無事に大掃除、そして延期になっていた新入寮生歓迎会を兼ねた打ち上げを行うことができ、親睦を深めるよい機会となりました。しかし翌月、新入寮生のうち二名（兄弟）

が都合により転居することになり退寮しました。残念な出来事でした。寮室の改修工事が六月から約三カ月の間行われ、居室の床のフローリングへの変更、壁の塗り直しをしていただきました。寮生も部屋の改修に満足しております。

学修状況については、今年に入ってから対面授業のある寮生が増えてきました。また、来年就職を控えている寮生の就職活動も順調に進んでいます。それぞれ活動をするにあたって外出の機会が多くなるわけですが、寮生全員の協力のおかげで十月現在コロナの感染者は誰一人いません。これからも気を緩めることなく生活し、この数字をキープしていきたいと考えております。

コロナ禍での寮生活が始まってから約一年半、様々な点で不便を感じていますが、寮生同士、そして寮母さんとの関わりが増えていのも事実です。この半期私が寮長としての務めを果たすことができたのも寮生、寮母さんの支えがあったからこそであり、素晴らしい寮生活を私たちが過ごしているのが何よりの証拠だと思っています。

最後になりますが、このような実りある寮生活が送れているのは寮母さん、大滝則忠コーディネーターをはじめ

めとする米沢有為会の皆様のおかげです。感謝の気持ちを忘れず寮生全員で精進してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します

最後に寮生の紹介をさせていただきます。

○四年生

井上 太陽〔帝京大学経済学部〕

(西山学院高校)

木村 周幹〔東京工科大学コンピュータサイエンス学部〕

(米沢興譲館高校)

近野 清正〔学習院大学法学部〕

(長井高校)

鈴木 皓大〔東京学芸大学教育学部〕

(米沢興譲館高校)

高橋 智博〔法政大学経営学部〕

(米沢興譲館高校)

山本隼太郎〔早稲田大学先進理工学部〕

(米沢興譲館高校)

○三年生

後藤 洵〔東京理科大学基礎工学部〕

(山形東高校)

○二年生

三浦 稜汰〔国学院大学経済学部〕

(山形商業高校)

大西ひかる〔明治大学理工学部〕

(米沢興譲館高校)

金田 凌〔杏林大学医学部〕

(長井高校)

後藤 星〔東放学園音響専門学校〕

(米沢中央高校)

鈴木龍太郎〔東京農工大学工学部〕

(米沢興譲館高校)

瀬野 陽生〔明治大学商学部〕

(山形市立商業高校)

高橋 勇輝〔東京大学理科一類〕

(米沢興譲館高校)

二宮 涉〔電気通信大学情報理工学域〕

(米沢興譲館高校)

我妻 恵多〔東京都立大学理学部〕

(高畠高校)

○一年生

伊藤 翔大〔一橋大学社会学部〕

〔長井高校〕

萩原 斗和〔東京学芸大学教育学部〕

〔米沢興譲館高校〕

宮田 耕平〔成城大学経済学部〕

〔九里学園高校〕

○寮母

福田 富子〔長野市出身で就任六年目〕



東京興譲館新入寮生歓迎会

仙台興讓館

小形 祥史

常日頃より、寮の運営、寮生へのご支援等にご尽力いただいております米沢有為会の皆様には、この場をお借りして深くお礼申し上げますとともに、仙台興讓館寮の近況についてご報告させていただきたく思います。今年の三月には、四名が寮を巣立ち、自身の目標に向かって新生活を歩み始めました。一方、今年の仙台興讓館寮では、新入寮生が一名入寮し、新しい顔ぶれでのスタートとなりました。自分が入寮したときには、期待と不安でいっぱいであつたことを覚えています。そんな中、先輩という存在がとても心強かつたことも同時に覚えています。そのため、今年度寮長を務める身として、新入生のお手本、そしてサポートができるように努めたいと思います。しかし、現在寮生は七人と未だ寂しい状況であります。来年度も、新入生の獲得を目指して勧誘に尽力していきたいと思います。今年度は、新しい寮母さんが就任され、寮母さんのいる生活に慣れ始めたことや、コロナ禍の生活に慣れ始めたことなど、去年と比べて安定した日々を

送ることができています。コロナウィルスが蔓延した際には、米沢有為会の方々には、多くのご支援をいただいたこと、改めて深くお礼申し上げます。インスタントの食糧やマスクなど多くの寄付をいただき、寮生皆が大した不便もなく生活できたのではないかと思います。現在でも、コロナウィルスに油断できない状況でありますので、ぜひ有為会の先生方や寮を支えてくださっている皆様にご自愛ください。寮生におきましては、コロナウィルス対策として、新入生歓迎会や花火大会など大きな行事を行うことができず、交流を深めることができなかったためとても残念ではあります。その分、コロナが落ち着きましたら、寮生で絆を深めていけるよう努めたいと考えております。学業に関しては、リモートであつたり、就活であつたりと、大変な時期ではありましたが、目標に向かって各々努力していたと思います。現在は、対面での授業を行う学校も増え、外で活動することも増えています。寮でも感染対策をしっかり行い、感染予防に努めます。また、今年度は寮母さんが昨年十月に就任されました。寮生としては、食事が出ることに加えて、心の支えとなつてくださる寮母さんが居らっしゃるということととても心強いです。そのこともあり、寮生同士協力

しあい、生活を工夫して過ごすことができました。寮母さんのいない生活を経験したからこそ、寮母さんの存在のありがたみを再確認することができました。寮母さんには、常日頃から感謝の気持ちを忘れず生活していきたいと思います。

このように振り返ってみると、今年度は、困難なことがすくなく穏やかな年となりました。寮で生活を送る利点はたくさん感じることもできました。学校のみならず、家に帰ってから先輩や同級生と同じ時間を過ごし、一緒に語ったり笑ったりと、人生においてとても価値のある時間を過ごせます。それに加えて、朝と夜には温かい食事が用意されており、勉強やバイトで疲れた夜や忙しい朝には本当に助かっています。このような魅力発信し広報活動に良い影響をもたらしてくれればと思います。最後になりますが、私たちの素晴らしい寮生活は、有為会の先生方をはじめ、寮母さんや寮を支えてくださっている皆様のおかげによって成り立っています。寮生一同、そういった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、勉学や社会活動に動しんでまいります。今後とも、仙台興譲館へのご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

寮生名簿

◎令和3年度前期寮長

鈴木 優 (東北学院大学経済学部2年)

「米沢商業R2卒」 米沢市出身

小形 祥史 (東北福祉大学健康科学部リハビリテーション学科4年)

「米沢興譲館H29卒」 川西町出身

伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイオ学科4年)

「米沢興譲館H28卒」 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科4年)

「米沢東H28卒」 米沢市出身

◎令和3年度後期寮長

鹿又 桂司 (東北大学経済学部2年)

「米沢興譲館R2卒」 南陽市出身

日下 和也 (東北医科大学薬科大学薬学部1年)

「米沢興譲館R3卒」 高畠町出身

洪谷 拓 (東北大学工学部機械知能航空工学科M1年)

「米沢興譲館H29卒」 米沢市出身



10月14日の寮の夕食



我妻榮記念館だより

○開館の経緯等

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過ごされました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越され、大友家がいを受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建築物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月二十一日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年六月）
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～）

○令和二年度の運営報告

・年間開館日

通常開館日…毎週月・木・金・日曜日の午後一時～

四時 一九九日開館

臨時会館…二日開館 合計二〇一日開館

・入館者数 二五二名（元年度は三六四名）

・記念館の利用 一七〇名（元年度は四八六名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会

・施設整備等

台所水回り工事、樹木の刈込及び消毒等の実施

・資料整備 著作を(株)ジーエスデザインがPDF化

・印刷出版

「我妻榮記念館だより」第二十五号発行（十一月二十五日）

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学校

五年生全員（六三二名）に配布

・その他

・ 県立米沢興譲館高校の自願財団奨学生による清掃奉仕と館長講話（十月八日生徒十名他）

・ 運営委員会 十月、三月とも新型コロナウイルス感染防止のため中止

○令和三年度の運営計画

・ 開館日は、毎週月・木・金・日曜日の四日間
午後一時～四時

・ 記念館の補修整備

・ 記念館の資料（著作）整備

・ 「我妻榮記念館たより」の発行（第二十六号 十一月頃）

・ 副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学校五年生全員に配布

・ 運営委員会（年二回）

・ 令和四年度が記念館開館三十周年、令和五年度が名誉市民・我妻榮先生の没後五十周年に当たることから、周年事業の取り組みについて検討を行う。

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、管理運営しています。

名誉館長 我妻 学

顧問 上村 勘二

館長 矢尾板 操

運営委員 本多 和彦 安部 敏

佐野 隆一 高橋 節子

曾根 伸之（新任） 佐藤 哲（新任）

佐藤 繁

管理人 手塚 正



我妻榮記念館

置賜市町だより

米沢市

「SDGs達成に向けた米沢市の取組」

二〇一五年九月、国連は、世界的な気候変動や貧困等の様々な課題を解決するために持続可能な開発目標（SDGs）を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択しました。

人口減少や少子高齢化などの諸課題を抱える地方自治体も、この目標の達成に向けて積極的に取り組んでいくことで、地域が抱える課題を解決するとともに、環境問題などの世界的な課題の解決を図るための役割の一翼を担うことができると考えています。

こうした考えのもと本市においては、令和二年十月に、二〇五〇年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。また、令和三年四月には、環境省の「令和三年度地域循環共生圏※づくりプラットフォーム構築に向けた地域循環共生圏の創造

に取り組む活動団体」に選定されたほか、令和三年五月には、SDGsの理念に沿った基本的・総合的な取組を推進しようとする都市・地域の中から、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として、内閣府の「SDGs未来都市」に選定されました。

これらのことは、国からも本市の今後の可能性について高い評価を得ているとともに、今後の本市の施策展開に大きな期待を寄せられているものと理解しています。

紙幅の関係もあることから、内閣府に提出している「SDGs未来都市」の提案概要を中心に、SDGs達成に向けた今後の本市の取組について御紹介いたします。

本市は、上杉の城下町として栄えたことから、上杉家ゆかりの史跡や文化財が多く残されています。中でも米沢藩九代藩主の上杉鷹山公が行った領民への「愛と信頼」に基づいた農村振興、殖産振興の取組や、草木への畏敬の念を示しているとされる「草木塔」が鷹山公の時代に初めて建立されたことなどから、鷹山公は、現在のSDGsにつながる「持続可能な地域づくり」の先駆けと評されています。

本市が内閣府に提出した「SDGs未来都市計画書」では、こうした歴史的な背景を財産としながら、市民、

企業などの多くのステークホルダーとともに「挑戦と創造」をし続け、ものづくり、健康長寿、環境教育をより高次元のものへと発展させることで、経済、環境、社会の三つの側面における好循環を生み出していくことを提案しています。

そのためには、短期的には、次の六つの施策を重点的に取り組むこととしています。

- ① 産業の振興
- ② 米沢ブランド戦略の推進
- ③ 健康長寿日本一の推進
- ④ ICT活用の推進
- ⑤ ゼロカーボンシティの実現に向けた取組の推進
- ⑥ 米沢版SDGsプラットフォームの創出

この中でも、特に⑥については、教育分野や商工業、農業など様々なステークホルダーの方に参画していただきながら、新たに立ち上げた米沢市SDGs推進協議会が中心的な役割を担いつつ、SDGs達成のために重要な企業、団体、個人が、それぞれの立場でできることを実践していけるよう、SDGsの周知・啓発を図るとともに、市内の多くの企業や団体、市民の方々が参加できるプラットフォームを創設することとしており、現

在、その制度設計（準備）を行っています。

このプラットフォームの中では、それぞれの企業、団体などが取り組んでいる内容を紹介するとともに、参加者同士が連携する機能を持たせることで、より多くの方々がSDGsの取組に寄与する仕組みを作っていくと考えています。

こうした様々な取組を通して、市民の皆様と共に、市民の誰もが生涯にわたって健康に活躍し互いに支え合う、誰もが住みたい・住み続けたいと思う持続可能なまちづくりをしてまいります。

※地域循環共生圏

二〇一八年四月に閣議決定された第五次環境基本計画で提唱された考え方で、各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じた近隣地域等と共生・対流し、より広域的なネットワークを構築していくことで、新たなバリューチェーンを生み出し、地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かすもの



上杉鷹山公銅像

長井市

鉄道駅と一体となった

全国初の庁舎



長井市では、持続可能な都市形成に向け、生活に必要な都市機能を中心市街地に整備・誘導し、各コミュニティセンターを核とした周辺地区と公共交通で結ぶ『コンパクト・プラス・ネットワーク』を進め、快適で利便性の高い、魅力的なまちの実現を目指して様々な取り組みを行っています。

「持続可能なまち」を形成するためには、公共施設等の老朽化対策が必要です。中でも、昭和三十三年に建てられて六十一年以上経過した本市の旧庁舎は、設備面も含めて著しく老朽化しており、平成二十八年に策定した「長井市公共施設等整備計画」において、市庁舎を令和二年度までに移転新築することとしました。

旧庁舎は、防災拠点としての機能と耐震性能の不足もありました。洪水時浸水想定区域に位置し、耐震性能では、平成二十六年度に耐震改修を行って「(震度六～七程度の地震の振動及び衝撃に対して)倒壊又は崩壊する危険性が低い」レベルにはなったものの、防災拠点施設として国が定める基準には至っていませんでした。

また、庁舎機能が旧庁舎に収まり切らず、六か所(多とときで七か所)に分散していたため、市民の皆さまにとって不便であるばかりでなく、職員にとっても業務効率が悪いものでした。

これらをはじめとする旧庁舎機能の現状と課題を整理し、利便性向上や業務効率化を図ることのできる新庁舎とするため、平成二十九年に基本構想を策定し、庁内検

討委員会、市民検討委員会等で検討を重ね、平成三十年に「長井市新庁舎建設整備基本計画」を策定しました。

庁舎建設候補地の選定に当たっては、「防災面で危険箇所に指定されていない安全な場所」「利便性の高いまちなか」「必要な規模の土地が確保できる」等の視点で検討し、当市の中心市街地にあつて洪水時浸水想定区域に該当しない、山形鉄道フラワー長井線の長井駅周辺に決定しました。フラワー長井線は、平成二十八年度から上下分離方式を導入して運営しているため、駅周辺の土地が市有地であり、用地取得に係る時間と費用を軽減することができました。

庁舎整備においては、旧庁舎の課題の解消に加え、日常の中で人と人との交流や触れ合いを生み出すという視点や、建物の景観やデザイン、当市の地域特性を考慮することも必要です。

そこで、市役所を地域交通の拠点となる長井駅と一体化し、来庁者だけでなく、フラワー長井線で当市を訪れる人など、様々な人によって多様な交流が生まれる庁舎として整備することとしました。

新庁舎は、市内に分散していた庁舎機能を集約し、防災拠点として、国が定める高い基準の性能を確保しました。また、太陽光パネルの設置や当市の豊富な地下水を熱源とした冷暖房空調システムの導入など、自然エネルギーを有効活用して環境にも配慮しています。

線路に沿った敷地のため、新庁舎は全長約一七〇mの南北に長い形状で、南側が市役所、北側が長井駅などのまちなか交流施設です。外観は、長井らしさを表現しながら、市役所部分とまちなか交流施設部分とでデザインに変化をつけました。市役所部分は、長井の歴史ある商家建築の縦格子をイメージした意匠とし、まちなか交流施設部分は、市内に数多く残る近代洋風建築をイメージし、窓や屋根に柔らかな曲線を採用入れました。窓枠などのポイントカラーには、長井の誘致企業第一号として一〇〇年前に新庁舎の隣接地で操業を開始した、郡是製絲のシンボルカラーであり、旧長井駅舎にも使われていた、ミントグリーンを継承しています。

庁舎内は、シンプルで分かりやすく、業務の機能性を高めるデザインとし、柱や間仕切りの少ないオープンフ

ロアや、デスクの配置を一定にして組織変更等にも柔軟に対応できるユニバーサルレイアウトを積極的に採用しました。

一階は、中央ホールに総合案内を設置したほか、市民の皆さまの利用頻度が高い窓口（市民課、税務課、福祉あんしん課、子育て推進課、健康スポーツ課等）を配置しました。仕切りのあるロウカウターのほか、プライバシー確保のため、相談用の個室を五部屋配置し、小さなお子様連れの方向けに、キッズスペースと、おむつ交換もできる授乳室を二か所ずつ設けています。

窓口では、手続きに係る負担の軽減、時間の短縮を図るため、「AI・OCR」と「RPA」を導入し、来庁された皆さまが、市民課窓口で記入した住所、氏名、生年月日などの基本情報を、福祉あんしん課や子育て推進課など他課の窓口で二度、三度と記入しなくても手続きができるようにしました。



市長室などの三役室と災害対策本部を設置する災害対策の専用室を二階フロアに配置し、災害時には、市長を中心とした迅速かつ的確な指揮命令系統を確立します。

まちなか交流施設は、長井駅のコncourseを兼ね、午前五時三十分から午後九時四十五分までご利用いただけます。一階は吹き抜けの開放感ある市民交流ホールで、テールやイス、どなたでも弾けるピアノがあり、談話や憩いの場、催しの場として親しまれています。二階の市民防災研修室は、市内の公共的な団体等にも貸し出しています。まちなか交流施設は、災害時に一時的な避難スペースなどとして活用します。

三階は議会エリアです。議場に向かう廊下は全面ガラス張り、市中心部を望むことができます。傍聴席の入口には車いす用の昇降機を設置したほか、傍聴席と議場との距離を近くし、市民の皆さまにとってより身近で開かれた議会を目指しています。

新庁舎が防災や市民サービス、交流の拠点としてこの地に根差し、市民の皆さまをはじめ、当市を訪れる方々からも長く愛されるよう、これからも暮らしやすい持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。



新庁舎の建築概要
鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建（一部4階建） 延床面積 8,319.50㎡

ち」への熱い思いが重なり合い、新たな価値観や発想が生まれました。本計画では、それらをふんだんに盛りこみ、多様な縁で新たな付加価値を生み出すまちづくりを目指しております。

二つ目は、総合計画の七つの基本目標と、SDGs（持続可能な開発目標）の十七のゴールを結びつけたところ

です。SDGsは二〇一五年に国連サミットで採択された全世界的な十七の目標のことで、二〇三〇年のゴールを目指し、あらゆる人々が取り組む必要があります。

本市では、このSDGsを単に総合計画に盛り込むだけでなく、基本目標と一体化させ、「各施策に取り組むこと」SDGsの実現を目指すこと」と位置づけております。

施策を進めるにあたっては、SDGsを意識し、取り入れ、そして実現を目指す姿勢を大切にしながら、未来を見据えたまちづくりを進めてまいります。

全国初の「南陽高校市役所部」

令和二年十二月十八日、全国初となる市役所部が県立南陽高等学校に発足しました。



市役所部写真

「南陽高校市役所部」は、教育活動の一環として設置・運営される部活動の名称を仮想的に模した、高校生主体のボランティアサークルであり、探究学習で学んだこと

を実践する延長の場として活動を展開しております。

発足のきっかけは、昨年南陽高校でスタートした一学年の探究学習で、高校生から「もっと地域のことを知りたい」、「学んだことを実践する場がほしい」との発案を受け、南陽高校

と南陽市が共同で立ち上げました。

今年の春からは、発足以来、初のプロジェクトが始動し、地元ジェラート専門店協力のもと、地元産の果物を活用した南陽高校市役所部オリジナルジェラートを開発しました。

高校生が実際に地域に飛び出し、生産者の想いを学び、自分たちで収穫することで、〃地域の魅力〃を肌で感じる事ができました。

また、令和三年七月には、包括連携協定を結ぶ東京大学先端科学技術研究センターと、「高校教育連携に関する共同発表」を行いました。

このことにより、センターの専門的な知見や豊富なネットワーク・経験を加えることで、未来の持続的な地域づくりと人材育成に更に力を入れてまいります。

来年六月オープンに向け南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こっと」建設中

開湯九二〇余年の歴史を誇る赤湯温泉には四つの公衆浴場がありますが、そのうち三つが昭和三十五年から四十五年にかけて建設されたもので、施設の老朽化が顕著となっています。そして、利用者数についても、施設

の老朽化や生活スタイルの変化などから減少傾向に歯止めがかからない状況にあります。

また、市が設置している高齢者保養施設「老人いこいの家」も築四十年を経過し、温泉設備の老朽化とともに施設のバリアフリー化が課題となっていたため、

「とわの湯」と「あずま湯」の二つの公衆浴場と「老人いこいの家」、さらに源泉管理、温泉供給を行っている「温



南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こっと」

泉事務所」を統合して、市街地中心部に南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こつと」を整備することになりました。

来年六月オープンに向け建設中の同施設は、源泉がけ流しの大浴場の他に露天風呂、障害のある方や介護が必要な方にも楽しんでいただけるバリアフリー浴室、街歩きの拠点として賑わいを生み出す交流スペースも整備予定です。地域に密着し、末永く市民に親しまれる憩いの場を目指すとともに、市内外から老若男女多くの利用者を呼び込むことのできる「温泉×観光×福祉」が融合した施設になることを期待しています。

生まれ変わるハイジアパーク南陽

旧ハイジアパーク南陽は令和三年三月三十一日をもって閉館し、九月に株式会社四季南陽様に譲渡いたしました。

株式会社四季南陽様は、山形新幹線をデザインした奥山清行氏が代表取締役となり、旧ハイジアパーク南陽を活用していただくための運営会社となります。

新しい施設は、立地条件を利用して新たに宿泊施設を整備し、温泉や食事、遊びや体験を通して楽しむ複合リゾートを計画しております。

また、南陽市の優れた食品を基に加工品の商品を開発していただき、それらを情報発信することによって「南陽を世界ブランドに」育てていただくことを株式会社四季南陽様には期待しております。

このような取り組みを通して、過去の投資を新たな形で活かすことができると南陽市では考えています。



旧ハイジアパーク売買契約締結式

高 畠 町

「移り住みたくなるまちを目指して」

産業振興センター内コワーキングスペースの整備

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、地方で暮らしてもテレワークで同じ仕事ができるとの認識が拡大しました。

感染拡大がなかなか収まらない中においては、通勤ラッシュや繁華街の賑わいなど、人口が集中する首都圏に居住すること自体がリスクとなるような状況下、住まいと働く場所が近いこと、ゆとりある環境、ヒトやモノ、コトとつながりを持つことができる関係性の近さなど、地方の魅力が見直しをされる契機ともなりました。

高畠町では、町内四つの中学校が一つに統合されたことで廃校となった、旧高畠町立第四中学校の跡地を利活用し、創業者や町内で事業を営む方が事業活動を行うた

めの施設として、令和元年に「高畠町産業振興センター」を整備しました。空き教室四つをサテライトオフィスとして整備し、二つの事業所が入居している状況です。そして、同年にこの旧第四中学校の体育館は、屋内遊戯場「もつくる」として整備し、町内産の木材をふんだんに使った木育施設として、町内外の多くの方々に利用いただいております。施設内にはファミリーサポートセンターも併設しており、子育ての悩み相談、託児を依頼できるなど子育てに関する拠点施設となっております。

また、同じく廃校となった旧時沢小学校では、「もういちど七歳の目で世界を・・・」をテーマに大人の社会塾として熱中小学校プロジェクトを行っています。生徒としてこのプロジェクトに参加され、来町される方は、コロナ禍となった昨年は減りましたが、毎年一、〇〇〇名程度の方が訪れています。そして熱中小学校の卒業生が、旧時沢小学校の二階空き教室に整備したサテライトオフィスに入居し創業するなど、町内の就労人口増に寄与しております。

さて、国においては、地方におけるサテライトオフィスでの勤務など地方創生に資するテレワークを推進する

ことで、東京圏への一極集中は正、地方分散型の活力ある地域社会の実現を図るため、「地方創生テレワーク交付金」が創設されました。

当町では、今年度この交付金を活用し、新たに産業振興センター内にコワーキングスペースの整備を進めています。コワーキングとは、事務所スペースなど仕事を行うスペースを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルを指しています。

当町のコワーキングスペースは、併設する「もっくる」を利用する子育て



屋内遊戯場「もっくる」

世帯が、子どもを預けて働くことのできる施設として、またJR高島駅まで徒歩五分という立地条件を活かし、首都圏に拠点を置きながら地方で働く場所として利用いただけるスペースとなるよう整備を進めております。施設内は、屋内遊戯場「もっくる」と同じく、木の温かみを感じることで、できるよう、床面や造作家具、テーブル天板面に山形県産材を利用し改修します。木材の特性によりほどよく調湿され、香りや触感がよく、心地よく働けるスペースとなります。

そして、サイドパネル等によってほどよい個室感をつくり、集中して業務を行える「個人ワークスペース」、利用者同士が情報交換を行えたり、ミニセミナーや勉強会を行える「H I R O B Aスペース」、床座でリラックスして休憩や発想の転換ができる「小上がりスペース」、個室で秘匿性が確保されりモート会議などに利用できる「ミーティングルーム」に分かれており、用途に応じた使い方を選択することができます。

利用は、スマートフォンで簡単に予約できるシステムを使います。利用者にはICカードをお渡しし、予約者のみが入室できるシステムといたします。利用料金等の支払いもQRコード決済を導入し、現金の受け渡しによ

る感染のリスクに配慮し、利用者が利用しやすい精算のシステムとします。

コワーキングスペースのオープンは、令和四年四月を予定しております。施

設見学会などを開催し、まずは町民の方に施設を知っていただき、県外企業へも施設の周知を行い、地方でテレワークを行う際の施設としてご利用いただけるよう、ハード面、ソフト面の整備を進め、魅力ある施設にしていきたいと考えております。



コワーキングスペース内
「個人ワークスペース」



コワーキングスペース内
「H I R O B Aスペース」

熱中小学校プロジェクト、屋内遊戯場「もつくる」、そして産業振興センターなど、交流人口の増加や、子育て支援策、創業支援として整備を行ってきた各事業に、コワーキングスペースを追加することで、一体的な移住定住の取組として、PRをしていきたいと考えています。オープンしましたら、ぜひご利用ください。

川西町

昨年は新庁舎整備についてご紹介しましたが、今年五月六日に新庁舎の開庁を迎えることができました。来庁される方々の利便性が向上したことはもちろんですが、執務環境も改善され職員一同新たな気持ちで協働のまちづくりに動しんでいます。今年は本町地方創生のリーディングプロジェクトであるメディカルタウン整備事業と若者の人材育成を図る愛知大学との連携事業について、その取り組みをご紹介します。

一 メディカルタウン整備事業

町では、人口減少の克服や地方創成を目的とした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成二十七年度に策定し、そのリーディングプロジェクトとしてメディカルタウン整備事業を掲げています。この整備事業では、町内大塚地区内に位置する公立置賜総合病院の周辺地域九・七ヘクタールについて、「医療」、「住宅」、「商業」等が融合した土地の利活用に取り組んでいます。

置賜地域の高度医療を担う公立置賜総合病院は、毎

日二千人以上の交流人口を有し、また、周辺には国道一・三号と二八七号が交差、令和五年度には新潟県山形南部連絡道路（梨郷道路）のインターチェンジが供用開始を予定しており、病院周辺は地理的に置賜地域の中心に位置し、交通アクセスに優れた地域であり、多くの人の往来が期待できます。

現在、町では民間事業者の誘致を図るとともに、道路や上下水道のインフラ整備に取り組んでおります。医療関係では、令和二年に開院した「おきたまフラワートリニック」に加えて、令和四年には内科と整形外科の診療所が開院予定であり、一次医療を担う開業医と高度医療を担う公立置賜総合病院が役割を分担する連携体制が整備されます。住宅関係では、山形県住宅供給公社が住宅地の造成、分譲を進めており、全体では約八十区画の造成を計画していますが、先行して令和四年に十七区画の分譲を開始します。商業関係では、スーパーマーケットとドラッグストアが令和四年の開業を予定しており、この他にも、ビジネスホテルや幼児施設などの誘致を計画しています。

人口減少が進む本町ですが、ポストコロナを見据え医療体制の構築により町民の健康を守るとともに、商業活

動の活性化や雇用創出、移住定住の推進などに全力を挙げて取り組んでいます。

二 愛知大学との連携事業

愛知大学は、戦前、上海に設立された「東亜同文書院大学」をルーツに持ち、昭和二十一年に愛知県豊橋市に開学した私立大学です。現在は、文系の総合大学として発展、名古屋市と豊橋市の三つのキャンパスに八学部、およそ一万人の学生が学んでいます。愛知大学の設立には、現在の川西町玉庭、旧南置賜郡玉庭村出身の本間喜一氏が大きな役割を果たしています。

本間氏は、玉庭村長などを歴任した小池熊吉の次男として明治二十四年に生まれました。十二歳で東京の中学校に進学、二年後には叔父本間則忠の養子となり、第一高等学校、東京帝国大学に進みました。卒業後、商法を学ぶために欧米に留学、その後、上海にあった東亜同文書院大学の教授（のち学長）に就任しました。戦後、東亜同文書院大学は中国に接収され、引き揚げた学生の受け入れ先として、本間氏が中心となり愛知県豊橋市に「愛知大学」を設立しました。本間氏は第二・四代の学長を務め、唯一の名譽学長の称号が与えられています。

平成二十六年五月、川西町は、本間氏の出身地である縁により、愛知大学と「連携・協力に関する協定」を締結しました。以後、人材育成をはじめ、研究や教育活動の支援を行っています。本間氏の「地域貢献者の育成」という大学創設時の思いに沿い、現在は主に次の三つの事業に取り組んでいます。

① 川西町・愛知大学本間喜一奨学金制度

町では、愛知大学OBで豊橋市在住の実業家越知専氏（本間喜一顕彰会名誉会長）からのご寄付を原資として「川西町本間喜一顕彰基金」を設置し、令和元年度から基金を財源にして奨学金の給付を行っています。対象は寄付者の意向を受け、東北六県から地域政策学部に入学者の学生とし、これまでに長井市、青森市、秋田市出身の三名を奨学生に認定しています。なお、奨学生は三年終了時までに本町で二回のインターンシップを行うこととしており、この夏も五日間のスケジュールで町の課題把握や、政策立案の方法などを学んでいます。

② 川西町・愛知大学連携自治体推進制度

本町に在住、在学している高校生を対象に、町が優秀な学生を愛知大学に推薦する独自の制度です。今年度は町内在住の一名が志望し、面接の結果、推薦することが

決定しています。今後、大学が実施する推薦入試を経て入学を果たすと、本間喜一奨学生に認定されます。

③「食農環境演習Ⅱ」の受入

地域政策学部に置かれた「食農環境コース」は、「食」や「農」、「環境」を学ぶコースで、大学設立時の本間氏の構想をもとに、平成三十年に設置されました。三年次の必修科目「食農環境演習Ⅱ」は、学生たちが本町を拠点に置賜地域の各所で演習を行うこととしています。令和二年度の開講に合わせるようにコロナ禍に見舞われ、令和三年度も来町が叶わないリモートでの実施となっていますが、地域内の農業生産者をはじめ、食品加工や流通、環境関連企業などの協力を得て実践的な学びの場を提供しています。

川西町では、創立者で名誉学長である本間喜一氏のゆかりによって愛知大学との連携事業に取り組んで七年。また、大学OBである越知氏からの多額のご寄付を有効に活用しながら、奨学金制度や学生の受入を通じて「地域に貢献する人材の育成」を図っています。一方、玉庭には今もなお本間氏が生まれ育ったかやぶきの曲がり家が遺されています。個人での維持管理には限界もあり、関係者はもとより地域全体で支える体制づくりが課題と

なっています。



第1号奨学生の鈴木拓優さん（長井市出身）
川西町交流館にある本間喜一氏の銅像の前で撮影

小国町

ワカモノの斬新なアイデアをまちづくりに

小国☆地域みらい塾

令和二年度、小国町では地域づくりの中心となっていた世代の高齢化や人手不足により、伝統文化や地域行事等の継承が困難な状況になりつつある地域づくりの活力低下を食い止めるためには、今後のまちづくりの核となる地域の若者同士が集まり、地域を考え、まちづくりの力を養う場づくりが重要と捉え、「ワカモノプロジェクト」を発足しました。第一弾が「小国☆地域みらい塾（以下みらい塾）」です。まちづくりに意欲のある若者が同じ気持ちの人たちと「何をどうするか」を学びます。高校生から四十歳までの方二十六人が受講し、職業や地区を越えて意見を交わしながら、五つの班に分かれて実践したいプロジェクトを立ち上げました。また、本町ではこうした若い思いを実現する後押しとして、みらい塾の受講生が活用できる補助金制度も準備しており、昨年度開催されたイベントでも活用されています。

○広がる若者の輪

■白い森未来フェス

令和三年二月十三日、道の駅白い森おぐにを会場に「白い森未来フェス（以下未来フェス）」が開催されました。数多くの町民の方が来場され、最終的には約三〇〇人の方が七五〇個を超える雪灯籠に心を奪われるイベントになりました。この未来フェスを企画、運営したのが嶋貫愛穂さんを中心としたみらい塾の第一期卒業生たちです。

みらい塾の中で、町の課題を考えたときに、「地域のイベントが少ないことが若者離れにつながっている」「雪が多くて生活に困っている」などの問題提起がされました。そこで、町の賑わいづくりと地域資源である雪の有効活用を目指したのが未来フェスでした。みらい塾の閉講式で嶋貫さんは同じ一期生に「せっかくある雪を活用したイベントをやりたいので、一緒にやってもらえませんか。」と呼びかけました。みらい塾で地域づくりの重要性や足りないことを共に学んだことで、一期生の仲間はその呼びかけに応えて集いました。それが未来フェスの成功に近づいたと言えます。

■シェア畑

「土地を持っていないため農作業をする機会がない」「若者でも野菜づくりをしたい」そんな声に応える

仕組みが必要ではないかと、みらい塾の中で意見が出てそのまま形になったのがシェア畑です。現在は、1期生の吉田悠斗さんの運営するゲストハウスTABETAIHOUSE（タベタイハウス）（大宮）の畑で出資者を募り活動をしています。最終的には、耕作できずに畑を放置している方から借り受け、出資した方々が自由に作物を耕作できるような仕組み作りを目指しています。

■移住者コミュニティつむぐ

移住者同士や移住者と地域の人をつなぐコミュニティを1期生の舟山康名さんが同じみらい塾の仲間や、移住してきた同じ思いの方々と作りました。

その移住者コミュニティつむぐが六月二十六日に町



中心部のショッピングセンターアスモ西口駐車場を会場に、SDGsをテーマにしたつむぐマルシェを開催しました。会場には、洗って繰り返し使える蜜蠟ラップ作りやマッソージ体験などのブースに加え、タコス販売コーナーなど、つむぐメンバーが小国に移住してくるまでに各地で培ってきたスキルや、現在小国で取り組んでいることに関わるものが提供されていました。これには、メンバー自身のことを町民の方に知ってもらいたいという思いが込められています。舟山さんは「移住に伴う人間関係への不安を少しでも解決できる場をつくりたい。」とつむぐを結成した経緯を話しています。今後移住されてきた方の不安軽減や移住者による多様な活動の場になることが期待されます。

○第二期開講

1期生の様々な活躍が見られる中、本町では六月二十二日から第二期のみらい塾を開講しています。今年度は、①統計データから小国を知ろう②町のお宝発見フイールドワーク③想いの共有とチームビルディング④チームでアイデアをプロジェクトへ⑤プロジェクトを診断してみようの全五回が予定されています。七月二十日には、チームビルディングが行われ、今後の地域づくりプロジェクトに向けて、チームとして成功するための方法

や町の課題などをワークショップ形式で話し合いました。二期生として参加している伊藤玲奈さん（小国高校三年）は「空き家を活用して音楽イベントなどをやってみたいと考えています。また、普段大人の方と話す機会がないので、私たち高校生世代が感じていることを大人はどんな風に考えているかなどを聞いて、違いを知ること、今後の進路に活かしたいと思い、みらい塾の受講を決めました」と参加したきっかけを話してくださいました。今後の講座で参加者たちの思いが引き出され、新たな形になることが期待されます。

○関わりを持つ楽しさ

今年度、新たな取り組みとして、第一期を卒業した方



同世代の若者と意見を交わす伊藤さん（右）

が、企画委員として二期生をサポートする立場でみらい塾に参加しています。これは、講座を受講しただけで終わりがちな研修に継続性を持たせることで、一期生が培った力を発揮する場を創出すること、今後同様の講座をみらい塾卒業生が主体的に開講していく仕組みを構築することで、講座自体が持続していくことを目的としています。また、二期生にとっても、活動の場を広げている一期生に考えを聞くことで、始めるきっかけや仲間づくりの方法を学ぶことができます。

参加者には、「自分たちがイベントを企画する中心的存在ではない」と話す方もいました。それでも、一緒に活動することでこれまで関わり合うことのなかった人となりが、それが、新しい形になることを望んで参加しています。みらい塾で出会い、語り、共に学んだことで、もう「仲間」になることができているのです。みらい塾から生まれた大きな効果だと言えます。

これは、町が目指す関係人口や協働人口と呼ばれる、実際に町内に住んでいないけれど、小国のことを考え、本町に関わる人を増やしていくという考え方につながっています。町は今後もまちづくりを担う若者の育成に力を注ぎ、住みたいまちを自分たちでつくっていけるように支援していきます。

白鷹町

白鷹町は、山形県の南西部、置賜盆地の北部に位置し、東西約十七km、南北約十六kmのほぼ正方形に近い形をしております。本町は、朝日連峰、白鷹丘陵により三方が山で囲まれた盆地を形成し、その中に水田が広がる自然豊かな町です。春の古典桜、夏の紅花、秋のアユ、冬の蕎麦と、四季それぞれの素材をテーマにした観光四シーズンの推進により、交流人口の拡大が図られています。特に、紅花については、山形県内生産量の約六割を占め、

生産量日本一の町として、「日本の紅（あか）をつくる町」を掲げ、シラタカ・レッド商品の開発や交流、健康づくりなど、紅をテーマとした地域活性化に取り組んでいます。

また、令和二年度には町民の悲願でありました、「白鷹大橋」が完成しました。同年に策定された第六次総合計画では、白鷹大橋の完成に象徴される一体化・中央拠点化に



白鷹大橋

よる都市軸と、各地域拠点を同心円状に捉えたコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの考え方を基本に、各分野の施策のうち、「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」の四つの分野を施策の柱としてまちづくりを行っております。

【白鷹大橋の完成】

荒砥地区と鮎貝地区の両市街地を結ぶ荒砥橋は、昭和三十二年の架橋から六十年以上が経過した老朽橋であるとともに、幅は五・五メートルと狭く、大型車同士のすれ違いや冬期間における交通に支障をきたしていました。早期の架け替え実現に向けて、平成十六年に「新荒砥橋建設促進期成同盟会」を設立し、「新荒砥橋架ける力だみんなの熱意」を合言葉に、官民一体で活動を継続してきました。その結果、平成二十七年に主要地方道長井白鷹線荒砥橋架替事業として新荒砥橋架け替え工事が着工し、五年の事業期間を経て、令和二年十二月六日に「白鷹大橋」



白鷹山開地固め

として開通しました。橋名には、これまで以上に町が一体となって発展してほしいという願いが込められています。

開通式では、町出身力士である白鷹山関の四股踏みによる地固め式、町内五つの家族による親子三代渡り初め等が行われました。悲願の新橋誕生に町民の方々も大勢駆けつけ、みんなで喜びを分かち合いました。

この白鷹大橋の完成により、経済、交流、物流等の拡大はもとより、町民の豊かな暮らしと一体感のあるまちづくりがより一層期待されます。

【まちづくり複合施設が内閣総理大臣賞を受賞】

令和元年度に供用開始となりました、まちづくり複合施設は、地上二階建ての中央公民館、図書館、防災センター、役場庁舎機能を併設した施設で、来庁者が最小限の動きで目的を果たされるよう、わかりやすい機能配置を行っています。施設内にある図書館は、開館以来、想定を大きく超える延べ六〇四〇二人（令和三年九月三十日現在）が来館し、木のぬくもりあふれる空間が広がる中に、子供たちに人気の「よみきかせのへや」やカウンスター式の閲覧スペースなどの工夫が施されています。

本施設の最大の特徴として、本町の貴重な森林資源を活かすことで、町産材をふんだんに使用し、伐採から製



図書館



大会議室

材・乾燥、施工までのすべての工程を一貫して町内企業が請け負い、地域内で森林資源を持続的に循環させる、緑の循環システム構築に向けた取組を実践しました。親しみやすく、木のぬくもりが感じられる地域コミュニティの拠点施設となっており、多くの方々にご利用いただいております。そうして取り組みによって、令和二年度には木材利用推進中央協議会主催の「木材利用優良施設コンクール」において、最優秀賞（内閣総理大臣賞）を受賞しました。

飯 豊 町

◆ゼロカーボンシティを宣言

十二月十五日、飯豊町は「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。「ゼロカーボンシティ」とは、二〇五〇

年までに温室効果ガスの排出量または二酸化炭素（CO₂）の排出量を実質ゼロにすることを目指すことを公表した地方自治体のことを呼びます。

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動による自然災害が世界中で発生しています。気



ゼロカーボンシティ宣言

温上昇は、本町の気温データにも表れています。観測所のある高峰地区の年間平均気温は四十年前と比較して約一℃上昇傾向にあります。また、時間当たりの最大降水量は高峰・中津川とも約十mm余りの増加が見られます。このような気候変動は豪雨災害などの自然災害の誘発や農作物の生産に大きな影響を及ぼします。

本町は、町民や事業者、行政が一体となって、町が掲げるSDGs 未来都市計画、バイオマス産業都市構想及び飯豊電池バレー構想の実現と、先人の努力と知恵により受け継がれてきた「日本で最も美しい村」の豊かな暮らしを次世代へ持続的に引き継いでいくため、二〇五〇年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦します。

◆飯豊町ゼロカーボンシティ推進

シンポジウム2021

二月七日、町民総合センター「あゝす」において、飯豊町ゼロカーボンシティ推進シンポジウム2021が行われました。町内外から約一〇〇名が参加し、ゼロカーボンとは何か、地球温暖化対策として私たちができることは何かを考えました。

第一部では、「ゼロカーボンシティ宣言と住まいとま



児童による学習発表

ちの未来像」と題し、東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授三浦秀一氏による基調講演が行われました。二〇一五年十二月に採択されたパリ協定では、地球の平均気温の上昇を産業革命前の二℃未満に抑えなければ深刻な問題が起これると予測し、すでに一℃上昇していること、地球の気温上昇を抑えるには温室効果ガスの排出を今世紀後半にはゼロまたはマイナスにする必要があることを話しました。また、二〇五〇年までに二酸化炭素(CO₂)の排出量を実質ゼロを目指すには、断熱効果の高い住宅

に住み、住宅の冷暖房エネルギーを低減させること、太陽光などの再生可能エネルギーの活用が鍵と報告されました。

続いて、飯豊町立第二小学校六年生が「考えよう私たちのエネルギー」～電気の学習を通して～と題し、前年の五月から学習してきた電気やエネルギーについて発表を行いました。地球温暖化によって経験したことのない台風や災害が発生していること、一〇〇年先の未来を考えて節電や使い捨てを減らしていくことの重要さを分かりやすく説明しました。発表を終えた児童は「緊張したが、練習よりも上手に発表できた」「学習を始めてから節電に気を付けるようになった」「新聞記事で環境の記事を見つけると注意して読むようになった」と話してくれました。

第二部では、「私たちの暮らしと持続可能なまちの未来」と題し、パネルディスカッションが行われました。地域資源の循環の重要性や昔の取り組みを取り入れ環境に負荷をかけない暮らしの大切さ、環境について考え安心して暮らせる未来について語られました。

町の「ゼロカーボンシティ」への挑戦は始まったばかりです。今後も豊かな暮らしを次世代へ持続的に引き継いでいくため、ゼロカーボンへの取り組みを進めていきます。

◆第五次飯豊町総合計画がスタートしました

今後十年間のまちづくりの方向性を示す新たな「総合計画」が、四月からスタートしました。人口減少や少子高齢化など、日本全国でみられる問題が今後加速すること

とで、多くの課題が顕在化することが予測されます。そのような状況で、持続可能な町として、町民の皆さんがより一層豊かで幸せに暮らしていくため、町が町民の皆さんとともに取り組む計画をご紹介します。

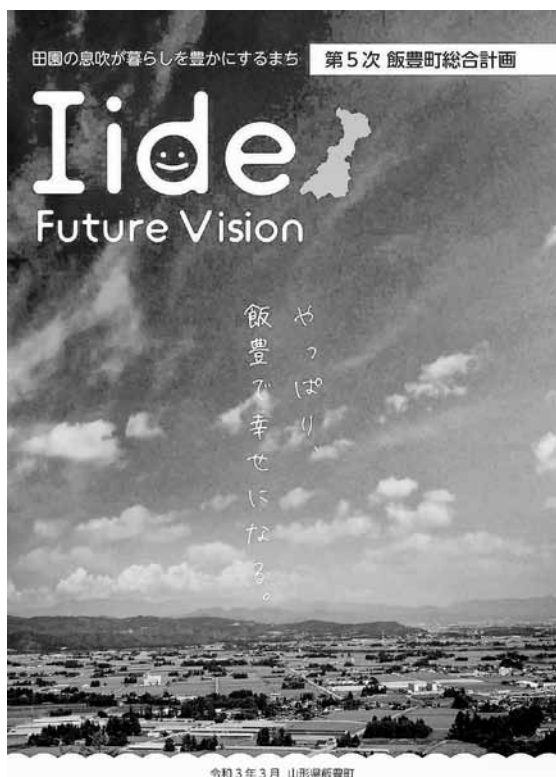
◇町の将来像・基本目標

基本理念「やっぱり、飯豊で幸せになる」
飯豊町の将来像

「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」

これまで飯豊町では「住民主体のまちづくり」をすべてのまちづくりにおける基本理念として、計画づくりやその事業化に取り組んできました。

長年、住民主体のまちづくりを行ってきた飯豊町には、人々をあたたく迎え入れる土台があり、誰もが輝き活動できるステージがあります。この地に生まれ、この地で生活することの素晴らしさ、日々何気なく目にする田園や里山、街並みの風景の価値の本質を再認識し、飯豊で幸せになるためには何が必要か、皆さんと考える十年間にしたいと考えて



令和3年3月 山形県飯豊町

総合計画表紙

います。

持続可能なまちを実現するためには、生涯にわたって飯豊町で暮らし続けていただくことが重要です。十年後、飯豊に住んでいて良かった、町を出ていった人が飯豊に戻って生活をしたい、都会で生活している人が飯豊で生活してみたい、やっぱり、飯豊で幸せになる。こんな声が聞こえてくるまちを、次世代を担う子どもたちからこれまでの飯豊町を築いてきたお年寄りまで、みんなが笑顔で暮らし続けられる持続可能なまちを目指します。

◇町の将来像を実現するための基本計画

町の将来像を実現するための施策の方向性を示すもので、施策大綱の五つの柱で構成し、SDGsの十七のゴールを意識しながら、環境・経済・社会に配慮した施策に取り組んでいきます。また、特に重点的に取り組む十事業を「重点プロジェクト」と位置付け、分野を横断して推進していきます。

「人をはぐくむ種」「世代をつなぐ種」「縁をつむぐ種」「郷土をたがやす種」「可能性をひらく種」の五つの種をまき、失ったら二度と取り戻せない農山村の景観と文化を守り、先人から受け継いだ財産を継承し、次世代の若者たちが働き暮らししていくこと、日本で最も美しい村

としての自立を目指した取り組みを行っていきます。

今後十年は、これまでまいてきた「五つの種」が芽吹き、しっかりとした茎を育て、立派な花を咲かせられるよう、五つの施策大綱を掲げ施策の展開を図ります。

◇地区別計画

地区別計画は、各地区の地域づくりの指針となるものであり、住民自治による地域独自の計画です。

飯豊町の地区別計画は、全国に先駆けて、第三次総合計画において、地区別土地利用計画を柱として初めて策定され、総合計画の一つの柱として位置付け、第五次総合計画にも受け継がれてきています。

町内九地区それぞれが住民自ら描いた「地区のビジョン」であり、地区の課題等を整理した上で、それぞれ十年後の将来像に向けた具体的な取り組みが示されています。

これらの計画に基づき、町民の皆さんが「やっぱり、飯豊で幸せになる」と思えるような持続可能なまちづくりを進めていきます。

二〇二一年度 置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

私たちの住む置賜地域は人口が次第に減少していき、このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域の安全・安心や伝統・文化の維持存続が懸念されています。様々な要因の一つに、高校生の進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない、「若者流出」があげられています。このような状況下においては、二年後に進学・就職を迎える高校二年生にとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることが、どのような進路に進むにしても大事なことです。

このような趣旨から、「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第四回小論文コンテスト」を高校二年生を対象に実施いたしました。応募された生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。今年もコロナ禍の影響で、応募者の減少が心配されましたが、総数九十七点の応募があり、喜んでおります。

小論文を読みますと、資料編を活用しあるいは自分の体験や知見を基にして、この地域の未来や自分の生き方を独自の視点で表現し、趣旨に沿った小論文を書いて

くれました。高校二年生の今、この小論文に取り組んだ経験はこれから先必ずどこかで役立つものと思います。この小冊子は、審査の結果、受賞された最優秀賞一点、優秀賞四点を収録したものです。広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思っています。

令和三年十月二十五日

高校生小論文コンテスト実行委員会

二〇二一年テーマ

「人口減少社会の中でも生き活きと持続していく地域とするためには」

優秀小論文

最優秀賞 山形県立小国高等学校 二年 和田彩日香

学園都市推進協議会会長賞

山形県立小国高等学校 二年 垂水 珠那

米沢商工会議所会頭賞

山形県立南陽高等学校 二年 安部 華蓮

米沢・置賜経済人クラブ会長賞

山形県立米沢興譲館高等学校 二年 樋口 蓮巳

米沢信用金庫理事長賞

山形県立米沢東高等学校 二年 高橋 凜

つながる力を信じて

山形県立小国高等学校 二年

和 田 彩 日 香

山桜が可憐に咲き、ふきのとうの一気に芽吹く春。真つ青な空に入道雲が湧き、蟬時雨が響く夏。温かな彩りの紅葉が山々を包み込む秋。降り積もった雪が優しい陽の光にきらきらと輝く冬。どの季節も愛おしい自然豊かな町。小国町は私の大好きな故郷である。

だが、我が町にも消滅の危機が迫っている。町報を見ると、毎月人口は減少の一途を辿る。この状況下で、私の好きな小国町を守っていくために、私たちには何ができるのだろうか。

そんな思いから、我が小国高校では「全国高等学校小規模校サミット」を開催している。サミットでは私たちと同じく地域を盛り上げたいと願う全国の小規模校生と

共に、自分たちができることを考える。先輩が始めたこの行事は、私たち後輩が想いを引き継いだ。私は初のオンラインサミットにコアメンバーとして参加したことで、顔を見合わせて話し、考えを深める重要性に気づいた。自校や他校の魅力について共有し合う時に、共感や「いいね！」を貰えたことで、母校や地域に自信と誇りを持てた。更に、意見交換の際には多くのアイデアが生まれ、それらを組み合わせ新たな構想が膨らんだ。自分では思いつかなかった考えに触れたことで私の視野も大きく広がった。出会えたからこそその成果である。

また、私は探究学習を通じて驚いたことがある。それは住んでいるにもかかわらず小国町について知らないことが多々あったことだ。「地域に浸る講座」で、有名な日本酒を生産している酒蔵や美味しいワッフルも食べられるマタギの郷交流館のあることを、高校生になって初めて知った。小国町が内包する魅力にまだまだ気づけていなかった自分を発見した。そして夏休み直前、地域の方と、自分自身の探究学習テーマについて語る「トークフォーカダンス」が開かれた。私たち小国高生の話聞くために三十名もの大人の方々が集まってくださったこ

とも驚いた。真剣に耳を傾け、熱心にアドバイスしてくださり、とても嬉しかった。地域の皆様からの溢れる熱い愛情を感じ、感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。ある方から「十年後の未来を想像してみて。」と言われた。私は小国町の美しい風景を大切な人と一緒に見、後世にも残したいと強く感じ、向日葵を育てるプロジェクトを立ち上げた。また、飯豊町ゼロカーボンシティー宣言のパネルディスカッションにパネリストとして参加し、SDGsについて語り合った際、持続可能な未来のために自分自身は何もしていないことに気づいた。何かできることはないかと思い、自宅でコンポストの取り組みを始めた。ささやかな一歩である。

思いついたアイデアをそのままにせず、小国町を愛する地域の方々自分たち若人が共に協力して行動し続け、努力をやめなことが発展への礎となるはずだ。私もこの一員として力になれるように挑戦し続けたい。



優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

地域みらい留学生の

私たちができること

山形県立小国高等学校 二年

垂水珠那

今年の三月末、私は初めて小国町に足を踏み入れた。米坂線に揺られ、小国駅で降りた瞬間に広がった、人生で初めて見る積もった雪に、とても感動したのを今でも覚えている。

挙げ始めるとキリがないほど魅力がたくさんある小国町を含む置賜地区は、人口が年々減少しており、過疎化が進んでいるという。この大きな問題について、私は地域みらい留学生ならではの視点から考えてみようと思う。

私が小国町を留学先に選んだ理由は、地域のつながり

が強く、高校生が地域活性化に貢献できる小国町がかった
こいと思ったからだ。住んでいた大阪府箕面市は、大
きな夏祭りはあるが、地域の人と触れ合えるイベントは
あまりなく、同世代以外は知り合いがいらないに等しかっ
た。私は幼い頃からずっと、様々な人とずっと近くで、
もっと濃く関わりたい、そんな環境にいる人が羨ましい
と思っていた。実際に小国町に来て、見ず知らずの私に
挨拶してくださる方が大勢いたり、畑で採れた野菜を頂
いたり、毎日が想像をはるかに超えるほど理想的で、た
まにこれは長い夢なのでは？と思うくらい幸せな気持ち
で過ごしている。

しかし、住んでみて驚いたのは、将来ここを離れたい
と考える同世代が多いことだ。進学等でなく、田舎だか
らとシンプルに町を嫌う中高生も少なくない。こんなに
魅力的な町なのに、良さに気付かず離れてしまうことが、
私にはもったいなく感じる。そのため、中高生の小国ファ
ンを増やすことで、町から出て行く人を少しでも減らせ
るのではと考えた。

そんな小国ファンを増やすためにうってつけなのが、
私たち地域みらい留学生だと思う。他地域で生活してき

た若者がここに来て感じたこと、素敵だと思ったことを
どんな形でも発信してみると、地元の子が当たり前だと
思っていたことが好きなどころに変わるかもしれない。
それが重なれば、小国町が大好きになるかもしれない。
実際に先日友人と話をしている際「小国町ってこういう
ところ素敵やんなあ。」とぼろつと言ったら、「当たり前
だと思ってた！普通はないの？」と驚いていた。そこで
小国町だけの魅力に気付いてくれたのが嬉しく、もっと
言葉に出してみようと思うようになった。留学生は、様々
なことを学ばせて頂くだけではなく、できることをどん
どん見つけて自ら実行することが必要だと思う。

春夏が瞬く間に過ぎ、留学期間が残り少なくなってきた
今、私たち留学生が頑張るべきことは次の留学生への
PRだ。他の留学先のように綺麗な海や大きな寮は無い
が、小国町には数えきれないほど多くの魅力があり、そ
れを素敵だと思う若者もきっといるはずだ。

私は、自然に囲まれて、町の方々があたたかい小国が
大好きだ。だからこそ、絶対に無くなってほしくない。
いつか私が大阪から帰って来ても、大好きな小国町の皆
が再びあたたかく迎え入れてくれたら、とても嬉しい。

米沢商工会議所会頭賞

つながりを求める

山形県立南陽高等学校 二年

安部 華蓮

人口減少社会の中でも活き活きと持続していく地域とするために、私は若者が地域とのつながりを深めて、地域への愛着を持ってもらうことが大切だと考える。そうすることで、若者の都会への流出を防ぎ、地域が活性化するのはないか。

今の日本の人口減少社会の背景にある課題は、若者の地域に対する意識が低いことだと考える。実際に私も、自分の住んでいる地域について知らないことが未だに多くある。これから、たくさんさんの選択肢の中から進路を決めて進学や就職をしていく私たち若者が地域の魅力に気づくことができれば、華やかな大都市での生活に惹かれてしまい、県外への「若者流出」につながってしまうのではないだろうか。

若者と地域をつなぐ、そのアイデアを形にした組織

が、一年ほど前から私の住む南陽市にできた。それが、「南陽高校市役所部」だ。私は今、そこに所属して活動している。南陽高校市役所部は、南陽高校と南陽市役所が共同で立ち上げた部活動のような課外活動を行っている。活動では主に自分たちが気づいた南陽市の魅力をSNSで発信している。特に今年は南陽市の魅力を知るために、南陽市内にある果物農家さんで果物狩りを体験させていただいたり、南陽市内のジェラート屋さんと共同で新しい商品を開発するなどの活動も行っている。その活動を通して、南陽市で何かものを提供している方々のこだわりの強さと、お客さんに喜んで欲しいという気持ちの強さに心を打たれた。多くの地域の方と関わり、つながることで、今まで知ることができなかった地域の魅力を知ることができたと同時に、この人情の厚い南陽市が好きだと感じた。

若い世代に地域の良さを知ってもらうために、南陽高校市役所部のように、自治体と学校が連携することが重要だ。若者が自分の住んでいる地域と関わり、地域の魅力を知るきっかけ作りを自治体が手伝うことで、若者と地域のつながりを深めることができる。今現在地方は人

米沢・置賜経済人クラブ会長賞

U I ターンで地域活性化

山形県立米沢興譲館高等学校 二年

樋口蓮巳

口が減少し、地域消滅さえ懸念されている。しかしこれから先、自分の住んでいる地域に愛着を持つ若者が増えれば、地元に残り、地元を盛り上げてくれることが期待できる。そうすることで地域が活性化していくのではないだろうか。それが更に進めば、地域の人が増えていくことにもつながっていくだろうと私は期待したい。

私自身、将来看護師になり、県内の病院で働くことで大好きな地元を支えていくつもりだ。また、若者が地域の魅力に気づき、愛着を持つきっかけを作ることができると大人になっていきたい。



私たちの住む置賜地域の近年の課題は、著しい人口減少である。その一因として「若者流出」が挙げられる。そこで私は、子育てしやすい地域をつくることでU I ターン促進を図り、人口減少社会の中でも活き活きと持続していく地域をつくることができると考える。

山形県の令和二年の人口移動状況は、県外転出者が県外転入者を大きく上回っている。特に、進学や就職を迎える若者の転出過多が要因だと考えられる。しかし、県外転出した若者が子供の誕生を機に地方へ戻る、または都市から地方に移住するU I ターンの事例は多い。その人々の多くは、自然や人柄、歴史などの環境と子育てをする上での地域からの支援を重要視している。置賜地域の自然や人柄には目を見張るものがある。だからこそ、

子育てのために置賜地域へＵＩターンする人々への地域からの支援を充実させることで、より子育てしやすい地域にしていくなが必要がある。

置賜地域は、イギリス人旅行作家のイザベラ・Ｌ・バードに「東洋のアルカディア（理想郷）」と称えられる程の、実り豊かな自然と人情がある。山に囲まれた内陸の盆地は、四季の変化に富んでいる。四季折々の伝統料理や美しい景観は極めて魅力的である。また、私の住む南陽市では、朝の交通量が多い時間帯に、見通しの悪い交差点や信号機がない横断歩道を小中学生が安全に横断できるよう、毎日の見守り活動をボランティアで行っている。さらに米沢市は、伊達政宗や上杉謙信などの歴史に名をはせた人物にゆかりがあり、それらに因んだイベントが行われ、歴史に触れる機会も多くある。このような素晴らしい自然や人柄、歴史を兼ね備えている置賜地域の環境は、子育てに適しているといえる。

子供の誕生を機に置賜地域にＵＩターンする人々への支援として、空き家バンクに登録されている空き家に、リフォームして住む場合、市や県と契約することで補助金を出すという制度を提案する。空き家問題は近年、一

刻も早く解決しなければならぬ問題の一つである。もし、この制度が実現すれば、ＵＩターンを促すと同時に、置賜地域の空き家問題の解決にも近づくのではないだろうか。

私たち高校生は、ゴミ拾いのボランティアで置賜地域の美しい環境を守ることができる。また、幼稚園や保育園などで職業体験の場を設けることで、高校生の将来の可能性を高めると共に、子育てにも貢献できるはずだ。

以上より私は、人口減少社会の中でも活き活きと持続していく地域とするために、子育てしやすい地域づくりを提案する。地域からの支援を確かなものにする一方で、ＵＩターン促進を図る。高校生も主体となって地域に貢献し、課題の要因になっている「若者流出」の改善に努めたい。そして、私の大切な故郷である置賜地域の更なる繁栄と存続のために奮励していこうと思う。



米沢信用金庫理事長賞

アイデアで地元とつながる

山形県立米沢東高等学校 二年

高^{たか}橋^{はし} 凜^{りん}

資料2を見てみると、特に若年層である十八歳～二十四歳の県外転出は県人口減少の大きな原因となっている。実際に友人や自分は県外に進学することを夢見ている。さらに、子どものころ大好きだったお店や商店街が活気を無くし、閉鎖が相ついでいる。にぎわっていた場所が減り、以前よりも活気が無いように感じてしまう。その中で私が地元の活気を取りもどすことについてなにかできることはないかと考えた。

資料5から若者定着、若者回帰に向けた県内の取組みとして、各高等学校における課題研究やインターンシップなどの事業が実施されていることや、働く人の様子・思いをSNSで発信し、地域で働く魅力を伝えていることが分かる。また、Uターン・Iターンを通して地元で

働くことの良さ・魅力を実感してもらいたいという思いを読みとることができる。

私には、地元について考える機会となった出来事が大きく二つある。一つ目は「びっくりコンペ」である。「びっくりコンペ」は米沢東高校に在学する先輩が企画したもので、置賜地方に居住する中高生が、地域の魅力発信や課題に関するテーマについて、それに役立つ近未来的なグッズや技術などのアイデアを募集するものである。私もこの企画に応募することで、友達と地域の魅力をどのようなアイデアで発信していくかを考えることができた。自分達のアイデアが実現するかもしれない、と楽しみながら地元と私とのつながりを再確認し、自分のアイデアで地元を変えたいと思うようになった。二つ目は、起業ゼミだ。起業ゼミはビジネスについて学び、実際にサービスを考えるもので株式会社ガイアックスが主催したものである。このイベントでは地元に関するサービスを考える人も多く、地元の魅力をどうしたらたくさんの人に伝え、それによって地元を活気づけられるか、などの意見交換ができた。この活動を通して、私は自分達から活き活きとした町、社会をつくっていくのだという意

識になっていった。起業ゼミのイベントが終わってから
も、メンバーと空き地の再利用や若者向けイベントにつ
いて話す機会ができ、自分が考えたアイデアを地元で実
現したいと思うようになった。

この経験から、人口減少社会の中でも活き活きと持続
していく地域とするためには、自ら地元が抱えている問
題に目を向け、それを解決する方法についてたくさんの方
人と共有し、一緒にアイデアを出していくことが必要で
あり、大切だと考えた。自分のアイデアが地元を活気づ
ける一步になるという意識が、自分自身で行動し、何か
を創り出していくことの楽しさへとつながるのだ。

これからは、アイデアを出すだけでなく、実現に向け
た活動をしてみたいと思っている。その中でたくさんの方
人と思いを伝え合い、さらに地元を活気づけられるよう
に頑張りたい。



第四回小論文コンテスト表彰式

第四回「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考
える』小論文コンテスト」の表彰式が十一月七日（日）、
伝国の杜置賜文化ホール大会議室で行われました。

今回は新型コロナウイルス感染防止のため、平山英三
審査委員長をはじめ東京在住の理事は出席せず、米沢支
部の役員のみ参加となる小規模開催となりました。

表彰式では、まず小論文コンテスト実行委員会の横井
博実行委員長が審査講評も含めて挨拶しました。その中
で、「今年はコロナ禍の中、応募数の減少を懸念したが、
応募者が九十七名と例年並みの応募数となった」と応募
状況に触れ、「このコンテストのねらいは、地域の未来
を見つめ、自分の将来の生き方を考えることにあるが、
そのような傾向の意欲的な論文が多数あり、コンテスト
のねらいは達成されたものと思っている」と振り返りま
した。審査講評として、優秀賞の三論文のタイトルには
「つながる（り）」というキーワードがあり、問題解決
の考察過程で導き出された共通の帰結ではないか、と指
摘。表現力については、自分の考えや主張が読み手に
うまく伝えられているかということに尽きるが、表現力



横井博実行委員長挨拶



中川勝支部長祝辞

の技術的な要素の部分を学習しマスターしてほしい、とアドバイスしました。そして、これからの皆さんの生活や仕事にある問題解決への対応という試練に立ち向かって、提案力と主体性を鍛えて続けていただきたい、と結びました。

表彰は、厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点が選ばれ、中川勝米沢支部長から受賞者の参加者六名に賞状と副賞が授与されました。

続いて、中川支部長が祝辞を述べ、「今後地域社会はどうなるのか把握し、自分の人生の目標を立てながら邁進してほしい。小論文で考えた思いをしっかりと育て、磨き上げて地域の問題解決に結びつけて実現してほしい」と激励しました。



中川勝支部長より表彰

また、十名の受賞小論文は、審査講評・募集要項・資料を含めて、『優秀小論文集』として発行され、出席者や高校などの関係者に配付されました。

なお、本号とホームページには最優秀賞と優秀賞の五点が掲載されていますので、ぜひご覧ください。



受賞者記念写真

審査講評

第四回の小論文コンテストには、九十七点の小論文が寄せられました。応募の背後には、各高校の先生方や地域での活動を支援してくださっている方々のご苦労があつてのことと感謝しています。

少子高齢化や都市部への人口集中が進み、地方の人口が減少していることは知られていますが、資料編の具体的な数字を見ると、このままでは「地方消滅」さえ懸念されます。このような郷土の現状から未来を予測し、起こるであろう問題の解決策を考えることは、高校二年生にとつてはとても難しい課題です。しかし、自分のこととして考えてみると、地元には学びたい大学が少なく、就職先も他県に求めざるを得ないことが原因の一つだとわかります。これを解消するために、郷里の良さや住みやすさ、地元の企業の魅力を発信して、地元に戻って就業できるように、また、他地域からも来てもらえるように出来ないかと議論し、自分なりの問題解決策や具体的な提案にまとめていることに感銘を受けました。また、すでに実践している取り組みが報告されていることには驚かされました。今回の応募を機に考え始めたという小論文も多く見受けられました。そのような問題意識を今後も持ち続けていただき、その先にまた新しい展開が生まれることを期待します。また、応募者を取り組みやすいように、高校側の意向を踏まえながら、応募小論文の内容や論文審査の状況に合わせて改善していくつもりです。

内容や水準のばらつきなどを考えると、指導に当たっておられる先生方には、小論文の書き方、特に伝え方の基本的な学習や論文の構成などのご指導をお願いするとともに、さらに生徒たちが自主性や主体性を発揮出来るよう、ご配慮いただければと願います。

置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト募集要項

一、趣 旨

少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、「地方消滅」さえ懸念されます。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか、二年後に進学・就職を迎える皆さんにとつて、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大切なことです。本コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い実施するものです。

「人口減少社会の中でも生き活きと持続していく地域とするためには」

二、テーマ 三、対象者 四、応募規程

置賜地区高等学校二年生
①募集要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめてください。また、各自の題名を付けてください。②文字数は一二〇〇字以内（四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内）③原稿用紙は縦書きに、一行目に題名、二行目に学校名・氏名、三行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数えます。④使用鉛筆はHB又はBを用い、字は大きく鮮明に書いてください。

五、審査の観点

①提案力 独創的（独自性）で前向きな提案であるか。②主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。③論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。④誠実性 課題解決の意欲や勉強した努力が感じられるか。⑤表現力 誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えられる文章であるか。

この五つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点で評価します。
各学校の担当者まで 各学校から主催者への提出締切 八月三十一日（火）必着
各学校で指定する期日まで 最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点

十一月上旬 伝国の杜大会議室（予定）
米沢有為会会長 平山英三

公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会

六、応募先 七、応募締切 八、表彰 九、表彰式 十、審査委員長 十一、主催・共催 十二、後援・協賛

置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校長会 米沢商工会議所 米沢・置賜経済人クラブ
米沢新聞社 N C V 米沢信用金庫

第4回小論文コンテスト 資 料 編

2021 年テーマ 「人口減少社会の中でも活き活きと持続していく
社会とするためには」

**はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、30年の長期的スパン（資料1）と、
2020年時点（資料2）の二つの視点から見てみましょう。**

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口（10年毎）

西暦	2015	2025	2035	2045	人口変化率 2015～2045（％）
山形県	1,123,891	1,015,910	897,075	768,490	-31. 6
米沢市	85,953	77,483	67,817	57,720	-32. 8
長井市	27,757	23,918	20,160	16,377	-41. 0
南陽市	32,285	29,017	25,494	21,762	-32. 6
高畠町	23,882	21,131	18,214	15,115	-36. 7
川西町	15,751	12,783	10,148	7,655	-51. 4
小国町	7,868	6,059	4,517	3,220	-59. 0
白鷹町	14,175	11,918	9,839	7,797	-45. 0
飯豊町	7,304	5,956	4,755	3,620	-50. 4
置 賜	214,975	188,265	160,944	133,266	-38. 0

＜出典 国立社会保障・人口問題研究所＞

置賜地区では、2045 年の人口が 2015 年と比較して 38.0%減少します。

資料2 山形県の人口移動状況＜2020年(令和2年)山形県の人口と世帯数から＞

○表1 全年齢層の県外転入・転出者数 (人)

	県外転入[a]	県外転出[b]	転出超過[b-a]
2020年	13,883	17,070	3,187

※令和元年10月～令和2年9月の状況

「県外転入」は県外からの転入を、「県外転出」は県外への転出を表している。

2020年の本県の県外転入、転出状況は、3,187人の転出超過になっています。

○表2 若年層の県外転入・転出者数 (人)

	県外転入	県外転出	転出超過
18 歳	390	890	500
19 歳	647	1,073	426
20 歳	425	650	225

21 歳	427	733	306
22 歳	660	1,213	553
23 歳	752	1,379	1,379
24 歳	578	813	235
計	3,879	6,751	2,872

＜出典 山形県ホームページ＞

18～24 歳の転出超過は 2,872 人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。

資料3 山形県の高校卒業者の県外への進学・就職状況 ＜出典 山形県統計企画課＞

	卒業者数	大学等進学者 数(うち県外)	専修学校進学者 数(うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の 割合
2019年度 (令和元年度)	9,849 名	4,390 名 (3,038 名)	2,170 名 (1,435 名)	2,934 名 (643 名)	9,493 名 (5,119 名)	53.9 %
2020年度 (令和2年度)	9,791 名	4,515 名 (3,254 名)	2,157 名 (1,444 名)	2,755 名 (707 名)	9,427 名 (5,405 名)	57.3 %

＜出典 山形県ホームページ＞

高校卒業者のおよそ5割～6割が進学就職で県外に出ていきます。

人口減少の一因である「若者流出」の状況を統計データで見てきましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。最後に、それらの取組を紹介しましょう。

資料4 置賜圏域の将来像…行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圏を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜3市5町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取り組みを行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2市5町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化（医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災）、②結びつきやネットワークの強化（交通、移住・定住・交流）、③圏域マネジメント能力の強化（職員等の交流）の3つの政策分野で取組を行う。

＜米沢市「広報よねざわ」 2019.5.1より＞

資料5 若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

事例1 山形県と大学等とのUターン就職促進協定 25大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

＜協定締結大学＞ 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校

＜出典 山形県雇用・コロナ失業対策課＞

事例2 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会、長井教育会、飯豊町奨学資金の奨学生。大学等を卒業後6か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、山形県内の助成対象分野に通算して3年間就業した後、申請し、助成対象者に認定された時点で返還金の一部の助成を受けることができる。

＜出典 山形県商工産業政策課＞

事例3 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関〔米沢市・南陽市・高畠町・川西町〕やハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校3年生対象）や企業説明会（高校2年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校1年生を対象とした職業体験会（WAKU WAKU WORK）の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。（昨年度は3校計419名の高校生を対象に実施）

事例4 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

事例5 働く人の様子・思いなどをSNSで発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後のUターン、他地域からのIターン事例など幅広い情報をインスタグラムや動画などで発信している。

会員の広場

「漆の実」句会の近況

世界を襲った新型コロナウィルス。多聞に洩れず「漆の実句会」も十五ヶ月の空白を余儀なくされた。令和三年十月、久々の句会を開催した。長い自粛の期間があつて意欲の低下を心配したが杞憂に終わった。各自それぞれの持ち味を見せた作品を披露していただいた。今後の力作も期待できると確信した。

会員の作品抄（令和三年十月句会）

（氏名・五十音順）

給食の芋煮のにほひブログから
給食の地産地消や深む秋

大田 甘美

※「ブログ」「地産地消」などの近年の言葉を活かして季節を詠んだ。

父の家いまも不意なる威し銃
点灯のタワーマンション虫時雨

片山 丹波

※父の故郷を訪れて驚く大爆音。都会では巨大建築物と虫の音。今昔の環境落差。
両方へわた飴の賞稚児相撲
停車位置茅刈られあり山の駅

小山八州史

※一切の感情を消して見たままを詠ったもの。人間のノスタルジーを探った。

友の去り猫の毛柔き秋の暮
星月夜猫の眼語り出す未来

佐野 眞

※猫という不思議な生き物。その柔毛にも、また眼にも深い何かがある。

人の居ぬ路地木屋を深く吸ふ
ちちははの除籍の記録暮れの秋

濱田 扇風

※木屋の季節。肺の奥底までその香気を吸い込む感慨。
二句目、父母を亡くされた哀しみ、謄本を目の前にして尚更に。

変る町柿の木今もたわわなる
曇天のうなさかを行く律の風

松原 薫子

※「うなさか」は海境。海神の国と人間の国を隔つ境界を言う。作者は湘南海岸近くに居住。海を吹く秋風の中での感覚。

【小山 八州史・報】

加藤国雄氏、上杉鷹山の研究報告書を出版

『上杉鷹山の藩政改革と金主たち』 『米沢藩の借金・再生史』

本会副会長の加藤国雄氏が令和三年六月、『上杉鷹山の藩政改革と金主たち』『米沢藩の借金・再生史』を出版しました。

米沢藩の名君上杉鷹山公に関する書籍は、『上杉鷹山の経営学』（童門冬二著）や『上杉鷹山「富国安民」の政治』（小関悠一郎著）、『上杉鷹山人を活かし、人を動かす』（鈴木進著）などのように、鷹山公の人物像や産業振興、財政再建、学問所の再興などの視点から、これまで多くの歴史家や研究者によって書かれています。加藤氏は長年鷹山公の米沢藩改革を「財務や資金繰りの面から分析・研究」してきており、今回「米沢藩側と金主（大名・貸し）側の双方から記載した」としています。加藤氏は本書の目的を、財政破綻寸前の時期に藩主となつた鷹山公の藩政改革の過程で、借金に応じた金主たちがどのように米沢藩を支えたかということに焦点を当て

るとともに、金融工学の専門家として独自の視点から藩財政を定量的に分析したとしています。

その後、本年十月、『一八三二年金主等リスト』再考、「根岸の本間家」、「鷹山の荏戸善政への一七九三年直書」の三点について『補論』が出版されました。

上杉鷹山の藩政改革と金主たち ～米沢藩の借金・再生史



加藤 国雄

なお、本書を読みたい方は、市立米沢図書館より借りるか、または米沢有為会ホームページ「会員の広場」をご覧ください。

県令三島通庸と山形の近代化 (道路、産業、文化、医療、教育、治安)

初代山形県令三島通庸をNHK大河ドラマに

推薦する米沢市万世会長 梅津幸保

今年の正月、萬世大路保存会の役員有志により懇談会を行ったところ、大河ドラマ化の話が盛り上がり、六月六日に地区内の会員一〇〇人以上の賛同を得て会が発足しました。コロナ禍ではありますが、呼びかけと会員募集をしております。彼の活躍で今の山形県があり、日本の近代化が進められたと言っても過言ではありません。日本の山形の近代化の父として、ぜひとも大河ドラマ化していきたいと思っています。

1 明治初年の米沢

慶応二(一八六六)年六月屋代郷三万石を与えられ、米沢藩は十八万三七四八石余となる。慶応三年十月九日徳川慶喜、大政奉還。慶応四年一月三日鳥羽伏見の戦い、戊辰戦争の始まり。九月八日明治と改元、一世一元が定められる。明治新政府の当面の課題は、政治、経済、社会、文化のすべてにおいて、欧米先進国に早

く追いつくことにあった。そのため地方の支配体制を整備し、中央集権化を進めた(富国強兵、産業振興、文明開化)。

i 米沢県、置賜県

明治二年六月版籍奉還する。六月十八日上杉茂憲知藩事。明治四年七月十四日廢藩置県。同十一月二日米沢県は置賜県となる。

大山形県の誕生

i 鶴岡県、山形県、置賜県

明治九年八月二十一日置賜県・鶴岡県を山形県に併合し大山形県が成立。初代県令三島通庸就任。

ii 県令三島通庸

鹿兒島出身、四十一歳、明治九年八月二十二日付施政八項目：道路・橋梁の整備、学校・教育の振興、病院建設と医学教育、殖産興業政策の推進、綱紀肅正など。

3 殖産振興

i 農業の振興

湿田農業を乾田馬耕に変えた。千歳園に産業試験場を建設。サクランボ、梨、李、杏子、りんご、ブドウ、モモなどが植えられた。果樹園芸の振興。

ii 工業の振興

4

水力機械所を設置、木綿の大量生産。製糸工場の設置、量産化。勸業博物館の設置（産業物産館）。
iii 教育の普及、医療の改善、治安の維持。
東京に通ずる道路の開鑿

物資の輸送、文化の交流を図るため山形県を囲んでいる山々に道路開鑿を計画する。庄内から秋田を結ぶ三崎新道、村山から最上に通ずる猿羽根新道、さらに秋田に通ずる金山・汐音・雄勝街道、仙台に通ずる関山新道、喜多方に通ずる大峠街道、それに福島への刈安新道、中野新道など。

5 栗子山隧道工事

i 荷馬車が往来できる道路

荷馬車で物資を輸送できる新道の開鑿。勾配を一定に取るための設計。

ii 調査の困難（岩盤手掘り―現場鍛冶屋、炭焼き職人、唐箕の送風等）

栗子山（杭甲嶽）を調査したのは山形県属官高木秀明土木課長である。明治九年十月十五日から調査一週間道路開鑿のルートを探索し、次のように報告している。

「深山幽谷上古ヨリ斧斤未ダカツテ入ラズノ地ニシテ狼熊ノ巢窟タリ 時即ニ積雪アリ雪脚ヲ没シ北

風膚ヲ剪ル 雪上ニ糧ヲ食シ樹下ニ露臥ス」
iii 工事の困難 栗子新道建設期間
着 工…明治九年十一月二十五日 刈安隧道着工
（十年二月十一日貫通、大正十二年七月十二日崩落、以後掘割）

明治九年十二月二十日 栗子隧道着工（計画明治十年十一月完成予定）

明治十年六月三十日 寸志夫反対運動起る。路線変更・修復（齋藤篤信区長）

隧道貫通…明治十三年十月十九日

開 通…明治十四年十月三日 開通式・明治天皇東

北ご巡幸

栗子山（一、二六m杭甲嶽）の中腹（標高八八四m）に長さ四八二間（約八六七m）幅三間（約五、四m）高さ二間（約三、六m）の隧道を掘る。四年の歳月をかけ貫通した。その後沿道を整備し、明治天皇東北御巡幸の日開通式を行った。総工費十二万七千円。開通後の一日の交通量は、歩行者二一〇人、小荷駄馬者四十台という記録がある。

6 明治天皇東北巡幸

i 高畠から米澤へ

明治天皇行幸（米沢日程）明治十四年。明治天皇三

十歳。

十月一日 高島町行在所（東置賜郡役所）御一泊

十月二日 行在所御発、途中亀岡村鈴木吉久衛宅、

川井村堤忠右エ門宅に小休の後、南置賜郡役所御着。（午後一時四十分）二時五十分興譲学校御臨幸（前年九月開校、中央八階総三階）後、裁判所、館山製糸場（天皇の御座所は戦後松ヶ岬公園へ。弓道場とする）。夕刻、上杉家の重宝、他物産展をご覧。

十月三日 曇天、六時二十分行在所御発、桑山観音

原で小休。御野立所（杉の丸太柱三間四面の東屋）で清水山の水で茶を差し上げた。八時二十分観音原御発、川越石で小休。九時十分滝の沢御着。小林徳蔵旅館で御小休。清水を差し上げた（後に明治泉）。ここから約一里で栗子隧道に御着。入り口付近の桜井旅館二階上段を御座所にして御昼食。午後二時隧道を通られる。

ii 萬世大路と命名 ※「万世」の名称

明治十五年新道を「萬世大路」と名付けられ、地元では「ばんせいたいろ」として親しまれている。明治天皇により「萬世ノ永キ二渡リ人々ニ愛サレル道トナレ」という願いを込められて命名された（明治十五年一月）。明治二十二年市町村制が施行されたとき、梓

7

山（牛森）村、桑山村、堂森村、金谷村、片子（刈安）村の五か村が合併し新たに万世村と称した。このときから万世という地名が誕生した。

萬世大路の繁盛

i 宿屋の新設

① 梓山台山に旅館一軒、蕎麦屋一軒

② 刈安に旅館三軒（最上屋旅館外）、遊女屋一軒

③ 瀧の沢に旅館一軒（小林徳蔵旅館）、遊女屋一軒

④ 栗子前に旅館二軒（桜井旅館、松島屋旅館）

ii 運送会社

網木に米沢運送会社の支店が一軒、川越石に二社の運送会社があった。

味噌醬油など旅館用の物資などが運送されていた。

iii 西南戦争の囚人労役―薩摩藩の先輩が三島県政を

援助（流謫日記）

福島米沢間鉄道開通

明治三十二（一八九九）年五月十五日奥羽南線

福島―米沢間鉄道開通。所要時間二時間半。（萬世大路十九年間、（三十八年間廃道後）昭和十二年自動車道の大改修、昭和四十一年ハイウェイとして開通（現国道十三号）、平成二十九年東北中央高速道路福島―米沢間開通。

8

三島県令の略歴

i 出生から青年期

①天保六（一八三五）年六月、薩摩藩士三島道純（数右衛門）、秀の長男。幼名林太郎のち弥兵衛。

②嘉永六（一八五三）年弟伝之丞の決闘切腹死。二年後十九歳、郷中で千田某と諍いあわや決闘。隈之城での謹慎生活三年（二十―二十三歳）。

③精忠組、寺田屋事件の同士討ち、戊辰戦争など幕末事件に関与。

④明治維新後、三島は薩摩藩庁で会計・民事奉行や都城の地頭等従事。

⑤明治四（一八七一）年十一月東京府に六等出仕、三十六歳。間もなく権参事、参事と栄進。東京大火後の銀座煉瓦街建設、土地税制、府下測量。五年十一月教部大丞。

ii 県令時代

①明治七年十二月酒田県令（教部大丞兼務）、三十九歳。八月農民騒動わっぱ運動（租税過納返還運動）広がる。収束する。

②明治八年八月酒田県を鶴岡県に改め県庁を鶴岡に移す。

③明治九年八月大山形県誕生。初代県令三島通庸。

④明治十五年一月福島県令兼務。七月山形県令解任。

⑤明治十六年十月栃木県令兼任。

⑥明治十七年十月福島栃木の陸羽街道竣工、栃木県庁開庁。安積疎水、那須疎水開通。

iii 土木局長時代

明治十七年十一月二十一日内務省土木局長に就任。国道の番号制や現在の地方整備局の前身にあたる土木局の組織の改正等に携わった。明治十八年十二月寺社局長兼務となる。

iii 警視総監時代

明治十八年十二月内閣制度で初めて警視総監となる。明治二十一年十月二十三日警視総監公舎で逝去。享年五十三歳。死因はリュウマチの悪化という。葬儀は青山霊園で行われ、実に一万二千人が最後の別れを惜しんだという。六男六女に恵まれた。

iv 妻和歌子

大正十三年十二月三日七十九歳で没す。

以上、簡単に概要を見ていただきました。今後県内、福島県、栃木県、鹿児島県と呼び掛けていきたいと考えております。ご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

郷土の本紹介 令和三年度（令和二年十一月～令和三年十月）

資料提供——市立米沢図書館

九

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
1	毎日を自分らしく生きるための小さいノート活用術	高橋 拓也／著	玄光社	K002.7	2021.2	文房具に関するウェブマガジンの編集長が手掛けた小さいノートの活用実例集。本書では米沢市出身のイラストレーター、mizutamaさんのノートの使い方を収録。
2	米沢の神社・堂宮15―広幡地区―	市立米沢図書館	米沢市教育委員会	K175	2021.3	市立米沢図書館が平成17年から行っている各地区の神社・堂宮の調査報告書。令和2年度は広幡地区の調査を行い、成島八幡神社や上小菅一宮神社などを収録。
3	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋 修／著	勉誠出版	K210.4	2021.2	「川中島合戦図屏風」「関ヶ原合戦図屏風」など、主要な戦国合戦図屏風を歴史学の視点から読み解き、特徴や成立背景について考察している。
4	謙信越山	乃至 政彦／著	J B press	K210.4	2021.3	上杉謙信はなぜ、関東へ越山したのか。越山の真相とともに、北条氏康ら同時代を駆け抜けた関東の武将らの活躍も網羅した戦国史。
5	田沢郷土誌	清野 春樹／著	田沢郷土誌編集委員会	K212	2021.7	米沢市田沢地区の郷土誌。当地区の郷土誌は本書が初めてのもので、1000頁以上の大ボリューム、多彩な写真で田沢の歴史・特色を紐解く。
6	側近が見た上杉鷹山の素顔「翹楚篇」を読む	岡崎 勝利・平賀 陽子／著	米沢古文書研究会	K212	2021.1	上杉鷹山の姿を側近の菰戸善政が記録した「翹楚篇」の解説書。米沢図書館所蔵の原文の翹楚篇写しとその解説、現代語訳付きで、古文書が読めない方でも読みやすく、内容が分かる一書。
7	上杉鷹山「富国安民」の政治	小関 悠一郎／著	岩波書店	K212.5	2021.1	近年、強いリーダーシップを発揮し、困窮する米沢藩を救済したとの像が確立しつつある上杉鷹山。在世から「明君（名君）」と言われ、藩政改革を推し進めた鷹山が目指した政治理想とは何だったのか。「富国安民」を鍵に鷹山の研究の第一人者である著者が丹念に紐解く。
8	近世の旅と藩	原 淳一郎／著	小さ子社	K212.5	2021.1	対象地域を米沢藩に絞り、多方面から旅と政治の関係を考察。領主上杉家の信仰、米沢藩の宗教政策・経済政策を押さえて、東北の風土・諸藩の特性を鑑み、民衆の信仰民俗がどのように営まれていたのかを検討する研究書。
9	日本の歴史を問いかける	地方史研究協議会／編	文学通信	K212.5	2021.3	山形県庄内地方の歴史を読み解く。友田昌宏「諸藩の思惑が交錯する奥羽戊辰戦争」庄内藩と米沢藩の場合」を収録。
10	白河藩	植村 美洋／著	現代書館	K212.6	2021.3	白河藩の成立から戊辰戦争までの藩体制を叙述する。人々がどのような生活を営み、どのような文化が白河藩を形成したのか、概説的にわかる一書。見返しに地図あり。
11	海が蒼く盛り上がるそこ	桑原 敏朝／著	新潟日報事業社	K214.1	2021.7	新潟市西区五十嵐地区に多い、古保姓・若杉姓の系譜を探る書。その過程で、上杉謙信公、上杉景勝公の来歴について詳細に検討している。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
12	日本近代史のなかの沖縄	我部 政男／著	不二出版	K219.9	2021.7	明治時代から戦後にかけての沖縄県の歴史を、筆者独自の視点から論じた研究書。収録の「地方巡察使と尾崎三良の沖縄視察」において、明治維新後、2代目県令となった上杉茂憲の県政について述べる。
13	戦国人 上州の150傑	群馬県立歴史博物館／編	上毛新聞デジタルビジネス局出版部	K281.3	2021.7	群馬県立歴史博物館にて平成30年度から実施しているモーニング講座「上州の戦国人」での発表内容を基に編纂。山内上杉氏、長尾氏についても触れている。
14	伊達一族の中世	伊藤 喜良／著	吉川弘文館	K288.3	2021.1	伊達一族が伊達郡へ入部した時から米沢に移るまで、鎌倉期、戦国初期の360年の歴史を解説。未解明な点の多い初期の伊達一族を、系図、発掘調査の結果から明らかにしている。
15	特別展 上杉鷹山の生涯 （藩政改革と家臣団）	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K289	2021.4	2021年4月17日から6月20日まで、米沢市上杉博物館で開催された特別展「上杉鷹山の生涯」藩政改革と家臣団」展の図版目録。
16	蒲生氏郷	谷 徹也／編著	戎光祥出版	K289.1	2021.3	蒲生氏郷の生涯・領国支配・城郭・史料・家臣等に関する論文を12本収録。氏郷の実像や豊臣政権での位置付けに迫る。
17	蒲生氏郷伝説	振角 卓哉／著	サンライズ出版	K289.1	2021.6	信長に絶賛され秀吉に従い、松坂、会津城主となるも、史料が少なくその実像は詳らかではない蒲生氏郷。鯉尾兜、日野・松坂・会津の町割、日野鉄砲など、彼の伝説とその根拠に迫る。
18	木曾伊予守義昌	志村 平治／著	歴研	K289.1	2021.2	木曾義仲の子孫を名乗り、木曾谷の領地を守ろうとした、木曾義昌の実像に迫る。巻末に「木曾義昌年譜」主要参考資料」付き。
19	「東国の雄」 上杉景勝	今福 匡／著	角川書店	K289.1	2021.7	米沢藩初代藩主である上杉景勝。『北越考談』で「素性詞寡く、一代笑顔を見たる者なし」と語られる景勝公の素顔とは。残された書状等からその意外な一面、生涯を追う評伝。
20	北条氏康とその時代	黒田 基樹／編著	戎光祥出版	K289.1	2021.7	北条氏康に関する人物像、領国支配、外交面を取り上げた論文集。阿部哲人氏「関東をめぐる氏康と上杉謙信」を収録。
21	雲のソナチネ 山歩きの雑記帳から	粕谷 俊矩／著	佐藤 要	K291.0	2021.1	山岳写真家の佐藤要氏の写真と山形県出身の著者のエッセイによる山の記録。白鷹山、石見堂岳を収録。
22	地図でみる山形	山田 浩久／編著	海青社	K291.2	2021.3	山形県の全市町村を網羅し、国土地理院の2万5千分の1地形図を原寸で掲載。市街地の様子、見どころを示す。
23	山形のトリセツ	昭文社	昭文社	K291.2	2021.8	山形県各地の文化、歴史、地元の方々が親しみやすいご当地情報も収録した一冊。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内 容 等
24	井上ひさしの憲法指南	井上ひさし／著	岩波書店	K323・1	2021・3	作家・エッセイストの井上ひさし氏がこれまでに寄稿、講演した憲法に関するエッセイ、講演録をまとめた岩波現代文庫オリジナル編集版。日本国憲法の誕生、三原則、憲法九条の精神など基本的な事柄を説く。
25	我妻・有泉コンメンタール民法 第七版	我妻榮／著	日本評論社	K324	2021・4	米沢市出身の民法学者・我妻榮氏の著作の改訂版。改訂により氏改正債権法などの解釈論をより詳しく解説。民法制定から改正の経緯も分かる一書。
26	上杉鷹山の藩政改革と金主たち	加藤 国雄／著	加藤 国雄	K343	2021・6	上杉鷹山時代の米沢藩の藩政改革について描かれた一書。藩の財政・金融面に特に焦点を当てて考察した著者渾身の一冊。
27	郷土料理と生きる 東北編	全国料理業生活衛生同業組合連合会	全国料理業生活衛生同業組合連合会	K596・2	2021・1	東北各県の郷土料理と食材、実際に料理を食べることができ料理店を紹介する一書。外国人向けの英語訳付き。
28	《地方》の思考 多文化ヤマガタ探訪記 2018-2019	滝口 克典／編著	よりみち文庫	K601・1	2021・5	2018年から山形新聞で連載していた「多文化ヤマガタ探訪記」を書籍化。山形県内の社会活動を行っている人々へインタビューし、まとめたもの。インタビュ内容に沿った、「あわせて読みたい」おすすめ文献の紹介付き。
29	名物駅弁秘話	沼本 忠次／著	天夢人	K673・9	2021・3	全国各地、地域ごとにこだわりのある駅弁。本書では14折の有名駅弁がどのように誕生したか秘密に迫る。新幹屋の「牛肉どまん中」を収録。
30	開館20周年記念特別展 狩野派 ―永徳とその周辺―	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K721・4	2021・8	2021年8月7日から10月10日まで、米沢市上杉博物館で開催された開館20周年記念特別展「狩野派 永徳とその周辺」展の図版目録。
31	大正・昭和期における東北の写真文化	石澤 靖典・森岡 卓司／編	山形大学人文社会科学部附属文化研究所	K740	2021・3	東北各県の写真文化の形成過程と、地域性の関連を調査・研究した論文集。岡部信幸「細江英公（鑑聴）と「東北」のイメー」を収録。
32	水心子正秀とその一門	黒江 二郎／編著	雄山閣	K756・6	2021・6	本書は昭和54年発行の同名本の復刻版。復古の鍛法により刀剣史上に「新々刀期」を開拓した水心子正秀をはじめ、新々刀期の名工100人を、多数の押形を示して詳細に解説。
33	小説秋月鶴山	童門 冬二／著	PHP研究所	K913・6	2021・2	上杉鷹山公の実兄である日向国高鍋藩7代藩主・秋月鶴山公を描いた小説。巻末に上杉鷹山公の生涯や日本の動きと参照できる「秋月鶴山（種茂）年譜」付き。
34	もう一杯、飲む？	角田 光代・島本 理生・燃え殻・朝倉 かすみ・ラズウェル細木・越谷 オサム 小泉 武夫 岸本 佐知子・北村 薫／著	新潮社	K913・6	2021・6	「お酒のある風景」をテーマに、9人の作家が執筆した小説・エッセイ集。米沢市出身の漫画家、ラズウェル細木氏のエッセイを収録。

法人賛助会員名簿

(令和三年十一月一日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。

東京支部

(有)アルックス

舟寿し

くさかり小児科

(株)向洋アドシステム

(株)羽黒洞

(代表者 敬称略)

宮坂孝夫

深澤和子

草刈章

金子晃司

木村品子

米沢支部

相田建設(株)

浜田(株)

(株)小嶋総本店

置賜建設(株)

(株)大清

(株)丸定

(代表者 敬称略)

相田晃輔

清川浩志

小嶋健市郎

川野敬典

中村友彦

佐藤良喜

米沢中央高等学校同窓会 権の実会

さの医院

中條医院

若松工業(株)

舟山 清

(財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社米沢支社

東北警備保障(株)

(株)カワサキ印刷

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニック

米澤信用金庫

(株)きらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

(有)今泉商店

石橋医院

佐野隆一

中條明夫

片倉尚

宮坂直樹

渋谷賢一

井上吉昭

安房毅

石田一郎

松本昭弘

武田誠一郎

川崎信一

佐藤大介

田中雄二

加藤秀明

松浦等

廣居誠

佐藤英司

今泉宏

石橋正道

山岸草木工芸(株)
 (株)本多建設
 佐々木隆一司法書士事務所
 (株)荘内銀行米沢中央支店
 (株)平山孫兵衛商店
 (株)米沢牛 黄木
 村正運輸(株)
 (株)ナウエル
 (株)川島印刷
 (株)タスクフーズ
 (株)上杉コーポレーション
 (株)データシステム米沢
 金子建設工業(株)
 米木建設(株)
 (株)青葉堂印刷
 太田建設(株)
 (有)平田自動車工業
 (株)エービーエム
 (株)後藤組
 (株)セゾンファクトリー
 ハイメカ(株)

山岸幸一
 本多作之助
 佐々木隆一
 荒井誠司
 平山順一
 黄木修太郎
 村山正博
 酒井登
 川島良範
 宮坂宏
 内藤文徳
 高橋孝二
 金子尚人
 前山郁朗
 中村隆志
 太田政往
 平田憲二
 赤間俊明
 後藤茂之
 齋藤雅一
 横山千広

(株)村山商工
 (株)堤商店
 (株)天元台
 ジーエスデザイン(株)
 東亜熱研工業(株)
 (有)HYOコーポレーション
 日台マシナリー(株)
 (株)小島洋酒店
 (株)ニューテックシンセイ
 (株)我妻組
 我妻建設工業(株)
 吉田建設(株)
 浜理P F S T(株)

仙台支部

仙台環境科学(株)

・東京支部 五社
 ・仙台支部 一社

・米沢支部 六十一社
 合計 六十七社

村山順彌
 堤孝雄
 山田長一
 福岡真知子
 増村力
 兵庫等
 丹野信嗣
 小島長五郎
 榎原晃
 我妻悦雄
 我妻弘一
 吉田浩人
 森千春
 (代表者 敬称略)
 加藤啓二

公益社団法人

米沢有為会役員名簿

令和三年十一月現在

名誉会長
名誉会員

会長・代表理事
副会長・代表理事
理事

監事

諮問委員

(東京)
(同)

上杉邦憲 下條泰生 須貝英雄 大滝則忠 平山英三 加藤国夫 伊藤藤夫 加藤藤夫 甲斐正憲 菅野憲幸 菊地隆雄 五雲寺利喜夫 須貝卓 滝口政彦 手塚宮雄 森田光雄 矢尾板操 山口昇一 横井一博 伊藤秀太郎 片平善造 赤井淳一 飯沼俊男

(同) 今井浩之介 (仙) 遠藤光広 (米) 遠藤善之 (仙) 大武清夫 (米) 小野庄士 (仙) 加川野巖 (東) 金子晃司 (米) 金子周治 (東) 草刈章 (同) 野藤三耕 (同) 佐藤知由 (米) 佐藤好明 (東) 佐藤芳彦 (米) 庄司治 (仙) 鈴木修子 (米) 高橋節新 (東) 瀧澤一 (仙) 田林昶 (北) 田村邦夫 (同) 丹野久 (米) 塚田昌伸 (仙) 長澤昌一 (米) 仁科義純 (東) 西村純

相談役

(同) 羽隅弘宣 (同) 樋口正宏 (同) 平山和博 (同) 深澤和子 (米) 宮坂宏 (東) 村石房男 (米) 山木勇一郎 (米) 大関修一郎 大友久太郎 小森力雄 佐藤毅 中條仁 米野宗禎 種村信次

理事役割分担

○総務部

部長 五雲寺卓 部員 五雲寺卓 事務局担当 加藤正憲 事務局担当 倉田和子 同 参事 田中勝 同 参事

○育英事業部

部長 伊藤和夫 副部長兼募集担当 手塚宮雄 奨学担当 菊地隆雄 学生寮(東京)担当 菅野憲幸 学生寮(仙)担当 滝口政彦 財務担当 森田光雄 施設担当 菅野憲幸 同 参事 高瀬勝 組織担当(東京) 菅野憲幸 組織担当(米沢) 伊藤和夫 同 参事 菅野智幸 同 参事 甲斐國信 組織担当(仙) 甲斐國信 内閣府連絡担当 平山英三 同 五雲寺卓 同 森田光雄

○地域振興部

部長 横井 博

副部長兼小論文・産業担当

山口 昇 一

理事 矢尾板 操 一

参事 鈴木 幸 一

遠藤 善 一

岸藤 順 一

後藤 正 穂

柴田 孝 彦

高橋 善 彦

長谷川 健 彦

同 本多 和 彦

同 宮坂 宏

同 山木 勇 一郎

○文化広報部

部長 塚宮 雄

会誌担当 菊地 隆 雄

H P 担当 須貝 利 喜 夫

参事 梅津 幸 保

石田 和 弘

同 佐藤 孝 市

同 近野 久 工 門

同 佐藤 正 廣

同 山口 正 廣

○文化大学

名誉学長 大滝 則 忠

学 長 加藤 国 雄

○東京支部長 菅野 憲 幸

○米沢支部長 中川 勝

○我妻榮記念館担当 矢尾板 操

○仙台支部長 甲 國 信

○北海道支部長 田村 邦 夫

○教育委員 岸 順 一

齋藤 裕 司

神保 雅 寿

高橋 善 彦

辻 雅 人

○産業振興委員 齋藤 友 久

菅野 紀 生

学生寮興讓館

○東京興讓館

館 長 菅野 憲 幸

副館長 大滝 則 忠

運営チーム 菊地 隆 雄

同 五雲 寺 富 子

寮 母 福田 富 子

○仙台興讓館

館 長 滝口 政 彦

副館長 長澤 健 一

寮 母 桶川 幸 江

○我妻榮記念館

名誉館長 我妻 勘 二 学

館 長 上村 勘 二 学

管理 人 矢尾板 操

運営委員 本多 和 彦

同 安部 敏 彦

同 佐野 隆 一

同 高橋 節 子

同 佐藤 繁 子

同 曾根 伸 哲

同 同 同 同 同 同

東京支部役員

支 部 長 菅野 憲 幸

副支部長 川合 勝 雄

理 事 太田 勇

板垣 史 朗

加藤 国 雄

倉田 正 憲

五雲 寺 卓 子

佐藤 好 明

林 常 夫

宮坂 隆 雄

工藤 美 知 尋

須貝 利 喜 夫

齊藤 三 紀

片平 善 造

松崎 祐 樹

小森 力 雄

石原 俊 一

今井 浩 之 介

岩瀬 和 子

遠藤 弘 隆 夫

神野 民 夫

相 談 役

監 事

支部長 中川 勝
副支部長

理
事
安 佐 横 伊
部 藤 井 藤
知 和
敏 由 博 夫

柿小大遠遠安安佐橫伊 中
崎野貫藤藤部部藤井藤 川
悅庄英善善 知 和
子十一之則徹敏由博夫 勝

山山村舟深橋佐佐金
田田石山澤本藤藤藤
幸雅房国和享孝泰
生宏男夫子子穀夫伸

(常務)

伊藤	石宮	柴橫	山井	山口	矢尾	本多	長谷川	中川	手塚	土屋	塚田	種村	高橋	曾根	鈴木	菅野	山宮	佐藤	佐藤	近野	後藤	岸
藤田	坂田	田井	井口	木口	板	多	川	川	塚	屋	田	村	橋	橋	根	木	野	宮	藤	藤	久	順
範和		正	昇	勇		和		宮		昌	信	善	節	幸	智	光	知	孝	孝	左	工	穗
夫弘	安	孝	博	一	郎	操	彦	健	勝	雄	宏	仲	次	彦	子	之	幸	雄	由	市	門	一

問

仁白佐寒後内渡山船福樋手辻武神庄齋後下川川金奥漆井稻
科岩藤江藤谷部口山崎口塚 田保司藤藤條野島沢村山上村
洋孝誠 幸重秀正秀真哲 雅誠雅芳裕 邦裕良 政 榮
一夫七信平治丈蒼一子弘正人郎寿彦司仁彦章範真秋裕子修

仙
台
支
部
役
員

（事務局長）村岡 学
（事務局）渡部 美由紀
（事務局）青木 繁行
（事務局）木村 美穂

					理	副支 支部長	支 部長
鈴木	加藤	大井	遠藤	今部	安塚	鈴木	甲國
良平	清光	廣宗	金之丞	保夫	修治	信	

相 監
談 事
役 事

中 笹 加 平 長 田 滝
條 木 藤 吹 澤 林 口
邦 啓 隆 健 暁 政
仁 明 二 一 一 彦

支 部 長	副 支 部 長	理 事	諮 問 委 員 (事務局)	相 談 役
田 村 邦 夫	佐 藤 俊 一	上 野 和 子	須 賀 秀 樹	丹 野 久 進
鈴 木 吉 行	関 二 郎	孫 中 敏	田 健 治	加 藤 雄 治
安 部 英 夫	佐 藤 三 雄	田 藤 三 雄	田 藤 三 雄	安 部 英 夫

副会長 大滝 則忠
（仙台OB）

監事	會計幹事	幹事	副幹事	幹事長			
高菅	川佐	本篠	山伊	平手	斎樋	宮川	菅
瀬野	井藤	多宮	田藤	山塚	藤口	坂合	野
憲陽	憲和	雅幸	和和		正孝	勝憲	
勝幸	一一	彦夫	生夫	博修	彰安	夫雄	幸

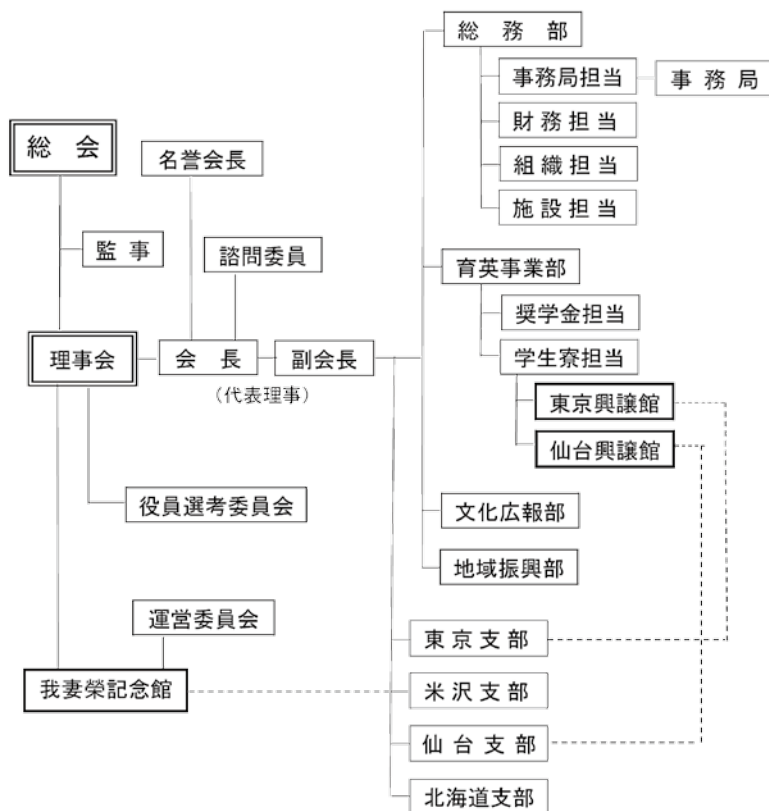
仙
台
支
部
監
事
仙
台
支
部
顧
問
仙
台
支
部
事
務
局

[illegible]

長本中船滝平
澤田條山口吹
健健 完政隆
一夫仁一彦一

公益社団法人 米沢有為会 組織一覧図

(意思決定し業務執行を分掌する理事会体制)



(令和 3 年 11 月現在)

本部・各支部事務所所在地

本 部

☎一八二・〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地

東京興譲館内

電・FAX (〇三)(三三〇九)三三〇一

ホームページ (<http://www.yonezawa-yuika.org/>)

東 京 支 部

☎一八二・〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地

東京興譲館内

電・FAX (〇三)(三三〇九)三三〇一

米 沢 支 部

☎九九二・八五〇一

山形県米沢市金池五丁目二二五

米沢市役所内 秘書広報課内

電(〇三三)(二二)五一一 FAX(〇三三)(二二)五五四一

仙 台 支 部

☎九八〇・〇八七四

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六二二

仙台興譲館内

電・FAX (〇二二)(二二)四七九〇

北 海 道 支 部

☎〇六〇・〇〇六一

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T G 札幌ビル7F

(株)建社内 田村邦夫

電(〇一一)(二七)二五八五

米沢有為会設置施設

東京興譲館 ☎182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309)3302

仙台興譲館 ☎980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222)4790

我妻榮記念館 ☎992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24)2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年会費 一〇、〇〇〇円 以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることでもありますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

置賜地区の自治体所在地

米沢市

〒992-8501 米沢市金池五丁目2番25号 ☎0238-22-5111

長井市

〒993-8601 長井市栄町1番1号 ☎0238-84-2111

南陽市

〒999-2292 南陽市三間通436番地の1 ☎0238-40-3211

高畠町

〒992-0392 高畠町大字高畠436番地 ☎0238-52-1111

川西町

〒999-0193 川西町大字上小松977番地1 ☎0238-42-2111

小国町

〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地 ☎0238-62-2111

白鷹町

〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地 ☎0238-85-2111

飯豊町

〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地 ☎0238-72-2111

後記

☆昨年から一年半以上にわたって世界的に感染拡大している新型コロナウイルスは、今年も変異株に進化して止まるところを知りません。十一月二十日現在、世界の感染者数の累計は二億五千万人以上、死者は五百十五万人以上となりました。まさにパンデミックと言われる所以です。日本でも二〇二〇年五月の第一波から八月、二〇二一年二月、五月、八月の第五波まで猛威を振るいました。一日当たりの最大感染者数は八月二十日の二万六千人弱でした。十一月までの累計は、感染者百七十二人以上、死者一万八千人以上に達しました。この間三度にわたる緊急事態宣言（延長を含む）が出されました。しかし、今年の二月から始まった米国のファイザー社やモデルナ社が開発したワクチン接種の効果次第に始め、人々の感染防止対策と相俟って、この十一月になりようやく収束してきました。一日の感染者数は二百名以下で推移しています。幸い東京と仙台の興譲館寮からは寮生をはじめ関係者のご努力により感染者が一人も出ていないことは喜ばしい限りです。☆このようなコロナ禍の影響により、蜜を避けるために私たちの社会生活は様々な制約を受け、三年前までとは大分様相が違ってきました。例えば、テレワークやオンライン授業、オンライン会議もその一つです。もはや国内外の会議や行事で広く利用され、当たり前前の風景になってきました。有為会の理事会にもすっかりこの方式が定着しています。

☆しかし、反面、コロナ禍のために私たちの活動が三年前までよりも大幅に縮小していると感じざるを得ません。従って、今年の『米沢有為会々誌』第七十一号へのご報告などは例年より少ないと思われるかもしれませんが（それにつけても、創立百三十周年がコロナ感染の前年だったのは何と幸運だったことでしょうか!!）。しかし、会議や行事などが延期や中止を余儀なくされた中、お忙しいところご寄稿いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

☆さて、本会の百三十年以上にわたる長い歴史の中で、創立当初から先人たちが本会への思いや活動の記録、時代の考察などを収めた『米沢有為会雑誌』類を創立百三十周年記念事業の一つとして、今年度デジタル化（電子化）を完了し、今後の末長い保存と会員の有効な活用に資することができることになりました。二万九千頁以上もの貴重な財産をホームページを通して広く皆様に共有していただければ幸いです。

☆今年度は二年毎の役員改選の年で、新旧役員が大幅に交代しました。退任者は大滝則忠前会長をはじめ六名の理事、重任者は平山英三新会長をはじめ八名の理事と二名の監事、そして新任者は横井博地域振興部長をはじめ七名の理事で、今回は十五名の理事と二名の監事から成る役員体制となりました。退任された皆様には、特にこの四年間創立百三十周年記念事業のために粉骨碎身のご努力をしていただき衷心より感謝と慰労を申し上げます。また、若い方々を含む新理事の皆様には、本会の更なる課題解決と発展のためにご尽力くださいますようお願い申し上げます。

（文化広報部長 手塚宮雄）

広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

(敬称略・五十音順)

上杉観光開発株式会社

株式会社 上杉コーポレーション

株式会社 羽陽印刷

株式会社 エービーエム

株式会社 川島印刷

株式会社 小嶋総本店

株式会社 スリーウッド・プロデュース

仙台環境科学株式会社

株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗

東北警備保障株式会社

株式会社 ナウエル

日本橋小舟町 舟寿し

株式会社 日山

株式会社 本多建設

吉野石膏株式会社

米沢牛銘柄推進協議会

米沢商工会議所

米沢信用金庫

株式会社 ワイ・エム・ピー

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60

電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本社

〒992-0003

南陽営業所

〒992-0472

山形県米沢市窪田町窪田584-2

☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

山形県南陽市宮内4641

☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

お客様の商売繁盛を応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd



株式
会社

川島印刷

〒992-0021

山形県米沢市大字花沢221-2

TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

ホームページに事例多数掲載中！

川島印刷

←検索



純米酒 東光醸造元

株式会社 小嶋 総本店

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL 〇二三八 一三三 四八四八

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒



東光 純米吟醸原酒

三年連続金賞受賞

ワイングラスでおいしい
日本酒アワード

〇お近くのお酒屋さんでお買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト

大泉逸郎「ありがてえなあ」(テイチク) 河北町
 浜 博也「正夢〜まさゆめ〜」(テイチク) 飯豊町
 奥山えいじ「う ま い 酒」(テイチク) 尾花沢
 (カラオケで唄ってください)

代表取締役
プロデューサー

木村尚武

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています

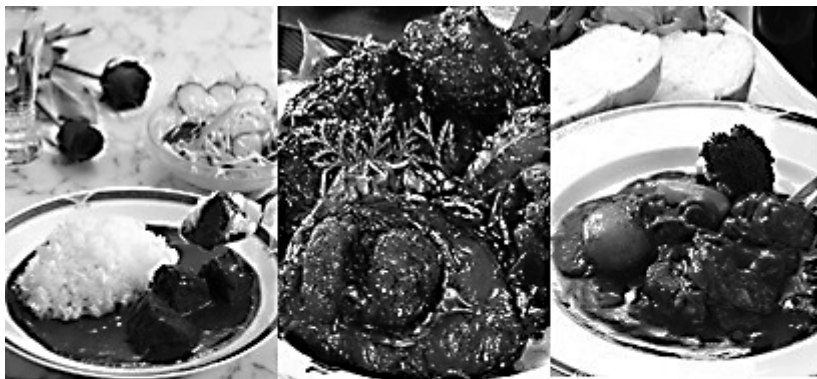


計量証明事業登録
宮城県知事 第H7-001号(濃度)
仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号
TEL (022) 263-1361
FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



創業百七十余年

みやさかや



株式会社 タスクフーズ

山形県米沢市相生町7-130

TEL:0120-25-7188

水曜日定休日有ります

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて49年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

営業品目 ・機械警備 ・常駐警備 ・交通誘導業務
・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
・施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

日本橋

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
培われた江戸前の技が活きる
お寿司・お刺身と共に四季折
々の御料理がご堪能いただけ
ます。お座敷はさまざまな個
室、カウンター、テーブル席
もご用意いたしております。
大小ご宴会から御家族、ご友
人との御会食まで幅広くご利用
頂けます。

深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2 深澤ビル
<http://www.funazushi.info/>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30

PM 4:30~PM10:00

(PM9:30オーダーストップ)

(土曜日の夜は、10名様前後で要前日予約)

【定休日】

日曜日、祝日、第四土曜日

※ 座敷は全席、椅子席になります



家族を愛する
ママを応援する家。



住宅の新築

♥ ママ応援住宅

♥ 子育て世代応援住宅

建替え、二世帯住宅など



リフォーム

水まわり工事など

小さな修繕から、増改築、

全面リフォーム(新築二世)まで

不動産

土地の売買や
中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ 本多建設

検索



株式
会社

本多建設

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号: 山形県知事許可(特-30)第500142号 / 一級建築士事務所登録: 山形県知事登録(1104)第1715号 / 宅地建物取引業者免許番号: 山形県知事(10)第1234号

いつも一緒に あなたのそばに



しんきん

**ドコモ
スマホ
教室**



さまざまなカリキュラムで
随時開催中!

参加無料!

ドコモ以外の方も大歓迎!

**まだスマホを
持っていないでもOK!**

※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。※ドコモショップ店頭または電話、WEBにて事前にお申込みください。※受講にはdポイントクラブ入会、dポイントカード利用登録、dアカウント発行が必要です。※一部有料の講座があります。

**ドコモスマホ教室の参加には、事前にご予約が必要です。
ドコモショップ店頭または電話・Webにてお申込みください。**

Web予約はこちら



※ご予約できる席数には限りがございます。
※教室参加時にモバイルデータ通信が発生する場合があります。
※受講にはdポイントクラブの入会、dポイントカードの利用登録、dアカウント発行が必要です。
※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。

※サイトへのアクセスには1バケット通信料がかかります。
※iモードからはご利用になれません。

ドコモショップ米沢春日店

☎ 0120-028-280

定休日：毎月第2木曜日 駐車場あり

【住所】米沢市春日1-3-31
【営業時間】AM10:00～PM7:00

ドコモショップ南陽店

☎ 0120-090-128

定休日：毎月第2木曜日 駐車場あり

【住所】南陽市郡山624-1
【営業時間】AM10:00～PM7:00



グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



上杉神社御参拝や上杉博物館・上杉
伯爵邸御見学など、上杉文化エリアを
ご散策の際には、ぜひお立ち寄りください。
米沢・山形の逸品をお取り寄せできる
上杉城史苑ネットショップもご利用ください。



上杉城史苑

TEL0238-23-0700

米沢市丸ノ内1丁目1-22

<https://uesugijoshien.jp>



株式会社
羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22
T E L (0238) 23-0467(代)
F A X (0238) 23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp



フォトプラン 176,000 円 (税込) ～

※ 洋装1点+ヘアメイク+写真データ



結婚式じゃない、新しいカタチ

ファミリーアルバムセレモニー 33,000円 (税込) ～



グランドホクワ

〒992-0012

山形県米沢市金池2丁目3-7

TEL 0238-22-1238

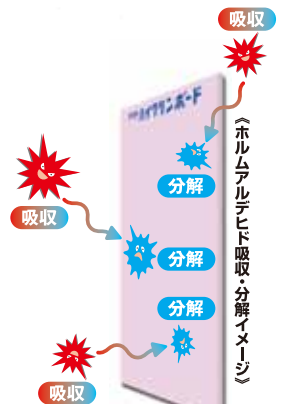
日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので、日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

タイガーハイクリンボード
High-Clean Board
ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード
(財)日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物汚染低減建材」として認定されました。(認定番号: BGCJAIB-T-7) 特許取得済



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る **吉野石膏**

[本社] 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 千100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>

代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年8月2日復刊
第71号
令和3年12月10日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 平山英三
編集 文化広報部長 手塚宮雄
東京都調布市入町町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302
印刷 榎羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467